

情報漏洩対策 + 資産管理ツール

マリオン
MaLion

導入事例集

MaLion の事例集をダウンロードしていただきまして誠にありがとうございます。
本資料では、「情報漏洩対策」「IT 資産管理」の成功事例をご紹介します。

お見積り、貴社でのご利用についてのご相談、ご不明な点など、下記のお問い合わせ先にお気軽にご連絡ください。

■ お問い合わせ先

株式会社インターコム

本社 〒 110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL : 03-3839-6240

中部営業所 〒 456-0018 名古屋市熱田区新尾頭 1-6-9 TEL : 052-678-3901

西日本営業所 〒 542-0081 大阪府中央区南船場 2-5-12 TEL : 06-4705-3060

ホームページ <https://www.intercom.co.jp/>

テレビ番組制作業	情報漏洩対策	株式会社ザ・ワークス 様 1
出版業	情報漏洩対策 資産管理	株式会社学研ホールディングス 様 3
Web サービス業 (主に人材領域)	情報漏洩対策 資産管理	株式会社ビズリーチ 様 5
映像制作業	資産管理	株式会社ポリゴン・ピクチュアズ 様 7
製造業 (化学工業)	情報漏洩対策 資産管理	太陽インキ製造株式会社 様 9
印刷業	情報漏洩対策	三晃印刷株式会社 様 11
情報サービス業	情報漏洩対策 資産管理	株式会社アグレックス 様 13
サービス業	情報漏洩対策	株式会社 TBS サービス 様 15
出版業	情報漏洩対策 資産管理	株式会社求人ジャーナル 様 17
通信サービス業	情報漏洩対策	財団法人東京ケーブルビジョン 様 19
総合不動産業	情報漏洩対策 資産管理	株式会社タイセイ・ハウジー 様 21
家賃責務保証業	情報漏洩対策	ジェイリース株式会社 様 23
ソフトウェア開発業	情報漏洩対策	ピー・シー・エー株式会社 様 25
製造業	情報漏洩対策	イトウ製菓株式会社 様 27
ゲームソフト開発業	情報漏洩対策 資産管理	株式会社ダーツライブ 様 29
小売業	情報漏洩対策	株式会社ニュー・クイック 様 31
システム開発業	情報漏洩対策	株式会社 NTT データ エマーズ 様 33



User Profile

会社名：株式会社ザ・ワークス
 所在地：〒105-0003 東京都港区西新橋3-2-1 Daiwa 西新橋ビル1F
 設立：1984年5月 資本金：5,000万円 代表者：代表取締役社長 霜田 一寿
 主な事業内容：
 ・テレビ・ラジオ番組、ビデオソフト、コンピューターソフト、コマーシャルの企画制作、販売及び輸入業務
 ・レコード、音楽テープ、ビデオの原版の企画制作及び販売 ・映画・演劇の企画制作
 ・著作権、商標権、意匠権、取得及び管理業務 ・著作者、芸能人の育成及びマネージメント ・広告代理店業務 ほか



ホームページ

<http://www.theworks.co.jp/>

結局、弊社が求める Mac 監視機能を備えたソフトは「MaLionCloud」だけでした。

大手制作プロダクションとして、民放キー局をはじめ国内の主要なテレビ局を顧客に持ち、幅広いジャンルの番組制作を手掛ける株式会社ザ・ワークス様。常に数十本の番組制作が同時進行で進む中、社内の約半数の従業員の方は、テレビ局をはじめ社外での勤務を続けておられます。社内の情報漏洩対策やIT資産管理を手掛ける総務経理部では、このように従業員の働く環境が極めて変動的な中で、業務上の柔軟性を妨げることなく最低限の情報セキュリティを維持しようと日々努力や検討がなされています。「MaLionCloud」をご導入いただいております。当時ご導入いただいた経緯や決め手などについて、総務経理部の村岡様、神原様に伺いました（2018年8月取材）。

導入の経緯

社内端末の7割を占める Mac の操作監視に対応するログ収集ソフトを検討

まずは情報漏洩対策ソフトの導入を検討されたきっかけについて教えてください。

このたび老朽化した社内PCの入れ替えを行うことになり、それを機に社内PCのセキュリティ対策についても見直してみようということになりました。

まずはランサムウェアの脅威が叫ばれる中、マルウェア対策を強化するためにクライアントソフトの見直しを行いました。次に従業員のPC操作監視（ログ収集）について検討することになりました。これまで特に操作ログの収集は行っておりませんでしたが、新規に取引を開始するにあたり、相手先の企業より弊社の情報セキュリティへの対応状況について質問を受けるケースが度々ありました。このような背景もあって対策の必要性を実感していましたので、万が一の情報漏洩事故に備え、原因究明と証拠確保に有効な操作ログ収集ソフトを導入しようと思いました。



総務経理部 村岡 茂 様

情報漏洩対策ソフトを導入するにあたり、どの辺に選定のポイントを置かれていましたか。

弊社は業種柄 Mac の利用率が高く、従業員 PC 全体の7割ほどを占めます（残りの3割は Windows PC）。そのため、Mac の操作監視に対応していることは必須要件と考えていました。加えて、弊社の従業員はそれぞれ担当する番組ごとの予定に沿って業務をこなしており、常時約半数の従業員がテレビ局のスタッフルームなど社外で勤務を行っています。このように、数か月ほど継続して社内のネットワークに接続しない従業員であってもまとめて管理できるようなソフトを希望していました。

その他、私達は専任ではなく他の業務も兼務する形で社内のシステム管理を担っていますので、極力管理者にとって運用負担のかからないものを導入したいと考えていました。

それでは、「MaLionCloud」をご選定いただいた「決め手」について詳しくお聞かせください。

「MaLionCloud」を選定したポイントは次の3点となります。弊社と取引のある Sler 複数社から製品/サービスのご提案をいただき検討しましたが、最大の選定ポイントであった「Mac 操作監視機能」について、当社の希望に合うサービスは「MaLionCloud」しかありませんでした。

「MaLionCloud」導入の決め手



Windows と併せて Mac の操作監視機能が充実している点

「導入の経緯」でも触れたように、社内 PC の7割を占める Mac の操作監視機能を選定時の必須要件とする中、必要十分な操作監視機能を備えたソフトは「MaLionCloud」しかなかった。社内に Windows と Mac が混在する企業にとって、両 PC を同等レベルで監視できる「MaLionCloud」は有用性が高いと感じた。



クラウドサービスのため、働く場所が変動的な従業員の一括管理に適していた点

社内/テレビ局/ロケ先など従業員の働く場所が一定でない中、クラウドサービスである「MaLionCloud」なら、リモートアクセス環境などの特別な仕組みを用意することなく一元的に PC を管理（安全にログ収集）できるため、自社の業態にちょうど合っていた。



管理者の運用負担が少ないソフトであった点

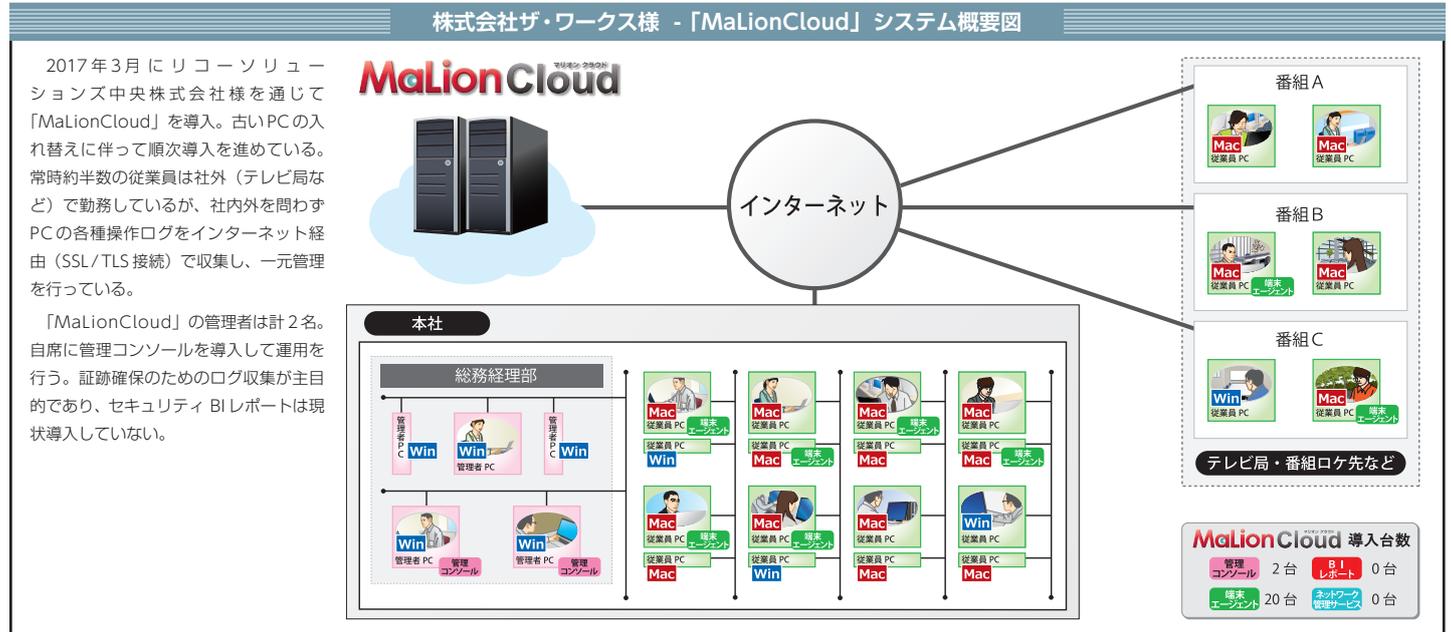
クラウドサービスのため管理サーバーの維持管理負担を必要としない「MaLionCloud」は、管理者にとって魅力的なサービスであると感じた。加えて、管理コンソールも直感的に操作できるほど操作性が追及されており使いやすいと感じた。

導入の状況

全社展開を見据え、新しいPCの入れ替えに併せて導入

☑ 「MaLionCloud」の導入状況について教えてください。

現状、初期段階として20台のPCに「MaLionCloud」を導入して運用しています。今後順次導入を進め、最終的に社内のすべてのPC（約200台）を「MaLionCloud」で管理する予定です。



運用と効果

ログ収集の社内開示によるセキュリティ意識の向上を実感、IT資産管理のシステム化も予定

☑ 現在一部導入の段階ではありますが、「MaLionCloud」をご活用いただいた感想をお聞かせください。

現在のところ、状況把握や証拠確保を目的として各従業員のすべての操作ログを収集しています。操作制限は業務効率の低下を踏まえ、一切行っていません。それでも、操作ログを収集していることは社内には開示していますので、各従業員の自覚により不正行為の抑止効果が働いていると感じています。

また業務上、社外へPCを持ち出す機会も多いですが、万が一マルウェアに感染した場合、即座に対策ソフトで駆除できるのはもちろんのこと、「MaLionCloud」が収集したログを基に感染経路を特定できることも、社内PCのセキュリティ強化の観点から重要であると考えています。

☑ 「MaLionCloud」を活用したIT資産管理については、どのようにお考えでしょうか。

IT資産管理については、これまでExcelによる台帳を使い手動で管理していました。現在、古いPCの入れ替えに伴って「MaLionCloud」の導入を順次進めています。入れ替えと併せてIT資産管理も「MaLionCloud」を活用した運用に切り替えていく予定です。

「MaLionCloud」なら、ハードウェアやOSの情報など各種インベントリ情報を自動収集して一元管理できますので、今後PCの管理台数が増加しても現在の陣営で無理なく管理できると思っています。さらにハードウェアとソフトウェア、およびそれらを利用する従業員を「MaLionCloud」上で紐付けて管理できますので、IT資産の部署移動などに対しても柔軟かつ正確に管理できると考えています。

☑ 最後に、今後の活用方針についてお聞かせください。

現状では業務効率の低下を考慮して、PCの操作制御を絡めた運用は考えていません。ただ特にUSBメモリの持ち込みについては、マルウェアの感染経路としてリスクが高いことでもありますので、今後業務効率性とのトレードオフを考慮しつつ、操作制御の検討についても想定しておきたいと思っています。

また働き方改革関連法の施行が正式に決まり、もともと勤務時間帯が不規則となりがちな番組制作業界においても、日々の働き方について見直そうという風潮が徐々に芽生えています。「MaLionCloud」で収集した従業員の操作ログを打刻データと突き合わせることで、時間外労働が常習的に行われていないか、あるいは勤務間インターバルが適切に確保されているかなど、将来的には労務管理にも有効活用していきたいと考えています。



総務経理部 神原 茂樹 様

●開発・販売

株式会社 **インターコム**

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769

中部営業所 〒456-0018 名古屋市中区新栄 1-6-9 TEL: 052-678-3901

西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <https://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：株式会社学研ホールディングス
所在地：〒141-8510 東京都品川区西五反田二丁目11番8号
設立：1947年3月31日 資本金：183億5,702万3,638円
主な事業内容：教室・塾事業、出版事業、高齢者福祉・子育て支援事業、園・学校事業 ほか
「MaLion」ご導入台数：3,100台

Gakken

ホームページ <http://ghd.gakken.co.jp/>

400台のMac PCが稼働する当社では、WindowsとMacの両PCに対して操作監視・制御できる点が導入の大きな決め手でした。

教育系雑誌や参考書など、教育関係の出版社として長い歴史と実績を持つ株式会社学研ホールディングス様。「教育系出版」というフィールドで培われた様々なノウハウは、出版物に留まらず、学校向け教材の開発、「学研教室」などの教室・塾の運営、子育て支援施設の受託運営など多様なジャンルの事業展開に応用されています。

「MaLion」をご購入いただいて半年強が経過しましたが、当時ご購入いただいた際の経緯や現在どのようにご利用いただいているのかなどを、学研グループで情報システムの管理を担う、株式会社学研プロダクツサポート IT サービス部の浜口様、中川様、草野様に伺いました（2014年3月取材、2017年11月更新）。

導入の経緯

XPから7へ社内PCのOS移行を行うにあたり、それまで課題となっていたツールの導入を検討

まずはPC運用管理ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

学研グループでは、以前から情報セキュリティに関する社内規程を設け、定期的な勉強会を開催することで従業員のセキュリティ意識の強化を図ってきました。ただ従業員のセキュリティ意識がまだまだ十分に成熟していないと感じる中、規程による性善説の管理のみではリスク対策として少し不安がありました。

また当社では、IT資産を新規に購入する際、必ず我々ITサービス部門を通じて行うことになっているため、IT資産の導入については当部門でしっかりと把握できていました。ところが一旦購入した後の資産移動や廃棄などは、各部門・拠点からの申告に頼る運用となっていたため、IT資産管理の正確性という点でも同様に不安がありました。

そんな中、昨年Windows XPからWindows 7へ社内PCのOSを全面的に移行する際、併せてPC運用管理ツールの導入を検討することにしました。



ITサービス部 部長 浜口 謙二様

PC運用管理ツールのご選定についてはどのように進められたのでしょうか。

ツールを導入するにあたってプロジェクトチームを編成し、調査・検討を行いました。当社とお取引のあるSier各社からもご案内いただき、5種類ほどのツールを対象として実装機能などを調査していきました。その後、「MaLion」を含む2種類のツールに絞りこみ、操作画面など実際の使い勝手も含めて検討を重ねました。

最終的に絞り込んだ2種類のツールは、機能面でどちらも当社の必要条件を満たしていました。ただ、Mac PC管理機能の充実性で勝っていた点が大きな決め手となり「MaLion」を導入することにしました。出版事業を営む当社の場合、組織全体の十数パーセントはMac PCが稼働しています。そのため、Windows PC同様にMac PCも柔軟に管理できる点を選定時には重要視しました。



ITサービス部 ITサポート室 室長 中川 俊規様

“Mac PC管理”というキーワードを挙げていただきましたが、最終的に「MaLion」をご選定いただいた“決め手”についてもう少しお聞かせください。

選定時のポイントとしては、“Mac PC管理”を含め次の3点が挙げられます。機能面の充実度はもちろんですが、操作性やサポート面など総合的な視点から最終的に「MaLion」を選択しました。

「MaLion」導入の決め手



Mac PCの操作制御機能が充実していた点

「MaLion」は、IT資産管理機能はもちろんのこと、PC操作制御機能についてもWindows PC向けとほぼ同等の機能をMac PC向けにも実装していた。WindowsとMacの両PCを一元管理できる点は絶対に外せない要素だった。



管理コンソールが直感的に操作できた点

「MaLion」の管理コンソールが普段使い慣れたメーラー風の画面構成に似ていた。そのため、親しみがある上に直感的な操作が可能であると感じた。将来的には、各部門・拠点の資産管理系担当者にも「MaLion」の管理者権限を与えて分散管理体制を構築したいと考えているため、各拠点の担当者が迷うことなく利用できるものが良いと考えていた。



リモートコントロール機能に標準で対応していた点

「MaLion」には、WindowsとMacの両PCへのリモートコントロール機能が標準搭載されていた。一方、比較したもう一方の商品はオプション対応となっていた。従業員に対するヘルプデスク業務など管理者負担の軽減を考慮した場合、リモートコントロール機能の有用性は高かった。

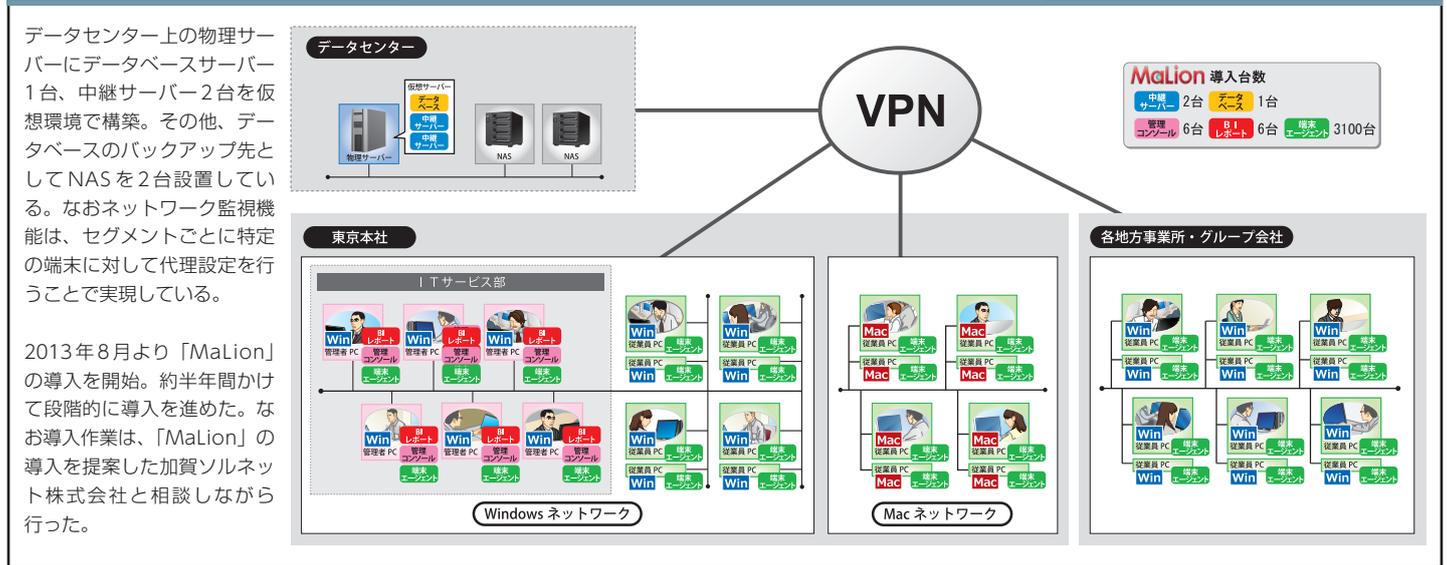
導入の状況

WindowsとMacの合計3,100台に導入、グループ会社を含む100拠点超のPCを一元管理

☐「MaLion」の導入状況について教えてください。

現在、学研グループ（全国100拠点超）全体で3,100台（Windows 2,700台、Mac 400台）のPCが稼働していますが、それらをすべて「MaLion」で一括管理しています。「MaLion」の運用はITサービス部（6名体制）で集中的に行っています。

株式会社学研ホールディングス 様 - 「MaLion」システム概要図



データセンター上の物理サーバーにデータベースサーバー1台、中継サーバー2台を仮想環境で構築。その他、データベースのバックアップ先としてNASを2台設置している。なおネットワーク監視機能は、セグメントごとに特定の端末に対して代理設定を行うことで実現している。

2013年8月より「MaLion」の導入を開始。約半年間かけて段階的に導入を進めた。なお導入作業は、「MaLion」の導入を提案した加賀ソリューション株式会社と相談しながら行った。

運用と効果

IT資産管理機能の活用で、機器管理業務の効率化と精度向上を実現

☐現在、「MaLion」をどのようにご活用いただいておりますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

「MaLion」を導入した後、まずはIT資産管理機能の活用からスタートしました。それまで手作業で行っていたIT資産の台帳登録が「MaLion」のインベントリ収集機能によりほぼ自動化でき、業務の省力化になりました。

「MaLion」では、社内ネットワークに接続されている各PCのIPアドレスやMACアドレスを所属拠点・部門別に確認できます。そのため、IT資産管理台帳に記載してある資産購入時の情報と照らし合わせることで、ITサービス部へ届け出ることなく勝手に資産の移動がなされていないか、あるいはソフトウェアのライセンス違反が発生していないかなど、現状の台帳の内容との整合を取ることができました。

特に地方拠点については、物理的に離れているため資産の移動などを目視で確認することができません。ところが、「MaLion」の管理画面上にリストアップされるIPアドレスなどの情報が資産の存在を表す確固たる事実となり、今まで管理しきれなかった部分が改善されたように思います。

またWindows XPから7への移行作業と並行して「MaLion」の導入を行いました。移行作業に伴う従業員からの質問に対し、内線での対応に加えて「MaLion」のリモートコントロール機能で直接移行作業を支援しました。従来と比べて対応業務の大幅な省力化につながっており、今後の社内ヘルプデスク業務にも有効であると考えています。



ITサービス部 ITサポート室
Webネットワークチームリーダー 草野 佳一様

☐最後に、「MaLion」に関する今後の活用方針についてお聞かせください。

情報漏洩対策については、まず当初より予定していたUSBメモリ管理の強化から進めていきます。「MaLion」のUSBデバイス台帳を利用してUSBメモリの棚卸を行い、会社で購入したUSBメモリの紛失などが無いか整理したいと思います。また私物のUSBメモリは原則使わせないようにするなど、USBメモリの制御設定を「MaLion」に適用していきます。また、共有のファイルサーバーに個人情報や機密情報を保存していますが、もともとファイルサーバーへのアクセス権限自体は設定してあるものの、アクセス権限を持った従業員の行動自体はこれまで明らかになっていませんでした。この点も「MaLion」の共有フォルダ監視機能で管理を徹底していきます。

IT資産管理については、現状ITサービス部での集中管理体制となっておりますが、これを分散型の管理体制へと少しずつ切り替えていきます。具体的には各部門・拠点ごとにIT資産管理担当者を定め、「MaLion」のアンケート機能などを使って担当部門の棚卸結果を入力させたり、あるいは管理できる範囲をIT資産管理業務に絞った形で「MaLion」の管理者権限を各担当者に直接与えたりすることで実現していきたいと思っています。

●開発・販売

株式会社 インターコム

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769
 中部営業所 〒456-0018 名古屋市熱田区新尾頭 1-6-9 TEL: 052-678-3901
 西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：株式会社ビズリーチ
 所在地：〒150-0002東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー12F
 設立：2007年8月 資本金：41億円（資本準備金を含む）
 代表者：代表取締役社長 南 壮一郎
 主な事業内容：インターネットを活用したサービス事業
 ・即戦力人材と企業をつなぐ転職サイト「ビズリーチ」
 ・戦略人事クラウドサービス「HRMOS（ハーモス）」
 ・日本最大級の求人検索エンジン「スタンバイ」など
 「MaLion」ご導入台数：820台

BIZREACH

ホームページ

<http://www.bizreach.co.jp/>

**従業員数の急増を踏まえたコストメリットや
Mac PCの操作制御に合うツールは「MaLion」だけでした。**

管理職や専門職を中心とした会員制転職サイト「ビズリーチ」の運営をはじめ、インターネットを活用したHRテック領域のサービスにおいて近年急成長を続ける株式会社ビズリーチ様。エンジニアを始め優秀な社内人材の確保には余念がなく、それぞれが最先端のWebサービスを提供し続けるビズリーチ様の急成長の源泉となっています。

会社の急成長に合わせて積極的な人材採用が進む中、社内のIT資産管理や情報漏洩対策を一手に引き受けるIT総務室では、管理面の正確性や効率性に対する努力や追及が日々行われています。

「MaLion」をご導入いただいて約1年半が経過しましたが、当時ご導入いただいた経緯や決め手などについて、IT総務室の松宮様、中村様に伺いました（2016年12月取材）。

導入の経緯

企業規模の拡大に伴い、IT資産の正確な可視化や運用管理面の効率化を図りたかった

まずは、PC運用管理ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

日本初の「ダイレクト・リクルーティング」サービスであるプラットフォームを提供している弊社では、主体的・能動的な採用活動を表す「ダイレクト・リクルーティング」を自ら実践し、優秀な人材採用を積極的に行っています。それが、弊社にとっての事業ノウハウにもつながってくると考えております。特に昨年は年間200名の採用を実施し、エンジニアやデザイナーを中心に従業員数が急増しています。

企業規模の拡大に伴い、私達IT総務室でも社内のITインフラにまつわる様々な対応に迫られました。まずは業務上の生産性にも影響を及ぼすネットワークインフラの整備などを優先して行ってきましたが、その対応が一段落したため、次にIT資産管理のシステム化に着手することにしました。

これまで、社内PCのIT資産管理はExcelベースの資産管理台帳に都度手動で入力していました。新入社員が増えるたびに、IT総務室では新たなPCを調達（リース契約）してキittingを行います。その際、ハードウェアやソフトウェアの情報を台帳に手入力していました。ただ私達がIT総務室に配属となる前から存在するIT資産が、後から台帳に記入されていないことに気づくことも少なくありませんでした。このようにIT資産の正確な可視化や従業員数の増加に伴う運用管理面の効率化については、以前より課題を感じていました。そこでこれを機にツールの導入を検討することにしたのです。

「MaLion」をご選定いただいたポイントについてお聞かせください。

「MaLion」を選定したポイントは次の3点となります。実は選定を行った担当の一人が以前の勤務先で「MaLion」を実際に運用していました。既にツールの運用ノウハウがある上に当時の使用感も良い印象だったため、弊社の運用上、不足している機能がなく予算内で導入できそうであれば「MaLion」を採用しようと考えていました。実際に「MaLion」を含む4製品で機能や費用を比較しましたが、総合的に判断して「MaLion」が弊社にとって最適なツールであると感じました。



IT総務室 エンジニア
松宮 大輝 様



IT総務室 エンジニア
中村 進太郎 様

「MaLion」導入の決め手



標準機能が充実しており、今後の継続した運用に伴う追加費用を考慮しなくて良い点

他社ツールでは一部の操作監視機能をオプション化しているものばかりだった。一方、「MaLion」では各種操作監視機能が一通り標準で揃っており、今後従業員数が増加したとしても、その都度オプション費用が追加で発生しない点が非常に魅力的だった。



Windowsと併せてMac PCの管理にも対応している点

会社全体の3割以上をMac PCが占めるくらいMacの導入比率が高いため、Mac PCの運用管理がきっちりできる点も選定のポイントとなった。「MaLion」は特にMac PCの操作制御機能に優れており、充実した管理ができると感じた。



管理画面が直感的に利用でき、わかりやすかった点

例えばタブを利用した画面構成のため、管理画面が遷移しても原則上部のメニューバーは変化せず同じ操作から目的の機能や画面を呼び出せる点や、次に利用したい機能がたいてい右クリックメニュー上に用意されていて簡単に呼び出すことができる点など、他社ツールと比べてとにかく使いやすさを感じた。例えば管理者のITリテラシーが高かったとしても、誰にとってもわかりやすい操作画面であることは重要な要素の一つであると思う。

導入の状況

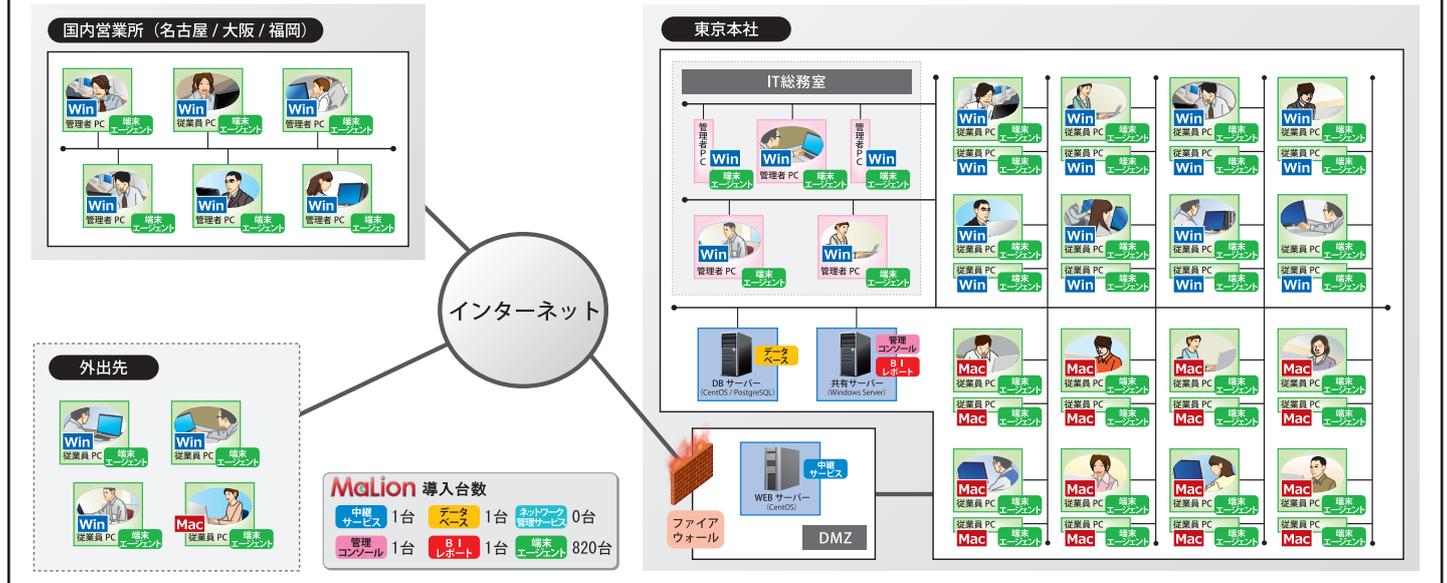
合計820台のWindowsやMac PCに導入。管理者5名体制で運用

☑ 「MaLion」の導入状況について教えてください。

弊社では、合計820台の従業員PC（Windows 520台、Mac 300台）を「MaLion」で一元管理しています。従業員にはPCのほかにスマートフォン（iPhone）を支給していますが、こちらはキャリア（携帯電話会社）のMDMサービスを利用して管理しています。運用管理はIT総務室のスタッフ5名で行っています。

株式会社ビズリーチ様 - 「MaLion」システム概要図

2015年6月に「MaLion」を新規導入（Ver.4）。Ver.5へバージョンアップする際に、サーバー構成をオープンソースソフトウェア（CentOS / PostgreSQL）に切り替えた。中継サーバーをDMZ上に設置し、本社PCを含むすべての端末ログをインターネット経由（SSL / TLS 接続）で収集している。管理コンソールとセキュリティBIレポートは同一のWindowsサーバーにインストールしており、各管理者は自席からリモートデスクトップでアクセスして利用している。「MaLion」の管理者は計5名。その内、社内ヘルプデスクを担当する2名が中心となって、本社を含む国内4拠点のPC 820台を一元管理している。



運用と効果

棚卸作業の効率化やUSBメモリなどの徹底した利用制御を実現

☑ 現在、「MaLion」をどのようにご活用いただいていますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

まずIT資産管理については、他の製品を利用して固有の番号が割り当てられたICタグをPCなどの各IT資産に取り付けて管理しています。ICタグには該当PCにまつわるハードウェアやソフトウェアの情報が記録されています。さらに各ICタグの情報が集約されたデータベースも存在します。PCごとに関連するIT資産情報を紐付けて管理していますので、IT資産の移動が発生した場合でも簡単かつ柔軟にデータベースを整理することができます。

ただ、各IT資産へのタグの取り付け（IT資産の新規登録）は手動となりますので、これまでのように登録漏れが発生する可能性があります。そこで、例えばIT資産の棚卸のタイミングで、IT資産のデータベース情報と「MaLion」で収集されるインベントリ情報を突き合わせ、正確な棚卸の実施に活かしています。

情報漏洩対策については、USBメモリを始めとする各種外部デバイスへの書き込みは禁止とし、読み込みのみ許可する形で運用しています。従業員が業務上、USBメモリを使って社内情報を一時的に持ち出す必要がある場合、社内のワークフロー申請により上長の承認を得た後、IT総務室で一時的に制限を解除して会社で用意したUSBメモリを貸し出すことで対応しています。私用のUSBメモリは紛失時の情報漏洩リスクに加えて、USBメモリ自体にウイルスが潜んでいて、それが要因で情報漏洩につながる可能性もありますので利用を禁止しています。

なお外部デバイスの接続に関して、操作制御だけでなく私用USBメモリを接続するなど不正な行為に対しては該当の従業員へ警告メッセージを通知するようにしています。今後の不正行為に対する抑止力や従業員のセキュリティ意識の向上といった観点からも効果を実感しています。



まるでリゾート地のようなエントランス

☑ 情報漏洩対策の面でも有効活用いただいているようですが、他の機能のご活用についてはいかがでしょうか。

外部デバイス接続の制御以外は、BitTorrentなどのピア・ツー・ピアソフトウェアについて起動禁止の設定を行っています。その他のPC操作については、証拠の確保を踏まえて現状ではログ収集のみを行っています。なお管理者への警告通知があった際は、管理画面上で操作状況を閲覧して必要に応じて注意喚起や是正を行います。PDCAサイクルを意識しながら定期的な運用改善まで行っています。

“導入の経緯”で、「MaLion」の導入に至るきっかけとしてIT資産管理のシステム化を挙げました。この他にも業務上、求職者の人材情報を多数取り扱っているため、社内の情報セキュリティ体制の強化も弊社にとっては重要です。この点、「MaLion」を有効活用することで今後さらに強化していきたいと思っています。

●開発・販売

株式会社 インターコム

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769

中部営業所 〒456-0018 名古屋市中区新栄 1-6-9 TEL: 052-678-3901

西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：株式会社ポリゴン・ピクチュアズ
 所在地：〒106-0047 東京都港区南麻布3-20-1 麻布グリーンテラス1 階
 設立：1983年7月22日 資本金：100,000千円
 代表者：代表取締役 CEO 塩田周三 従業員数：約300名（プロジェクト契約者含む）
 主な事業内容：映画、TV番組、TVCM、展示会映像、Web・スマートデバイス、キャラクター開発などデジタルコンテンツの企画・制作・ライセンス事業
 「MaLion」ご導入台数：745台



POLYGON PICTURES

ホームページ

<http://www.ppi.co.jp/>

インストールされているソフトウェアの確認が容易になり、 350種類近いソフトウェアの適正な管理が可能になりました。

1983年の創業以来、CG制作の分野で30年以上の歴史を誇る株式会社ポリゴン・ピクチュアズ様。国内外から集結したクリエイターの皆様によって生み出されるコンテンツは、映画やゲームなどさまざまなメディアに対し、常に時代の先端を行く価値を提供されています。ポリゴン・ピクチュアズ様のコアコンピタンスともいえる個々のクリエイターの映像制作能力を最大限に発揮する上で、ハードウェア・ソフトウェアといった制作環境は重要なファクターとなります。そのため社内のIT資産管理を一手に引き受けるシステム部門では、正確性と効率性に対するたゆまぬ追及がなされています。「MaLion」をご導入いただいて約1年が経過しましたが、当時ご導入いただいた経緯や決め手などについて、システム部の林様、塩月様に伺いました。（2016年10月取材）

導入の経緯

350種類近いソフトウェアの適正な管理が求められる中、既存ツールの問題点を解消するべく検討

まずは、IT資産管理ツールの導入をご検討されたきっかけについてお聞かせください。

弊社では、プロジェクト単位で契約しているフリーランスのスタッフを含めると、毎月10名強の従業員が入れ替わります。私達システム部では、その都度対象端末の各ソフトウェアライセンスを一旦開放して、新しい従業員のために再度端末のセットアップ作業を行っています。また管理対象となるソフトウェアは、本体とプラグインを併せると合計で350種類近くになります。ソフトウェアの種類が多く利用状況の変化も激しい中、それらを適正に管理することもシステム部の業務となっています。

このように、弊社ではソフトウェア資産が非常に豊富であり管理も煩雑なため、「MaLion」を導入する以前から他のIT資産管理ツールを利用していました。ところが、収集したログ（インベントリ情報）の表示に関して何点か問題がありました。一番の問題は、特定のソフトウェアがインストールされている端末を調べるためにログをキーワード検索した際、目的外のログが検索結果として一緒に表示されていた点です。具体的には、監視対象端末のIPアドレスを自動的に収集する機能があり、その収集結果が検索結果と一緒に表示される仕様になっていました。これでは、どの端末に特定のソフトウェアがインストールされているのかを簡単に調べることができません。さらにログの収集日が表示されないため、収集した情報がいつの時点のものかわからず、IT資産のライフサイクルを管理するという点でも問題がありました。

近年従業員が増加し管理対象となるIT資産が増加する中、このような問題が看過できないものとなってしまったので、新たなIT資産管理ツールの導入を検討することにしました。

ツール検討の経緯と「MaLion」をご選定いただいた「決め手」についてお聞かせください。

まず乗換の候補として、「MaLion」と他の製品の2製品に絞って比較検討しました。両製品とも評価版を試用したところ、「特定のソフトウェアの社内導入状況が迅速にわかること」「特定の端末のソフトウェア導入状況が迅速にわかること」など、弊社で必須と考えていた機能はどちらの製品にも備わっていました。価格もほぼ同等でしたが、次に挙げるような付加価値が備わっていたことが決め手となり、「MaLion」を導入することにしました。



システム部サポートグループ グループリーダー
林 雄吾 様

「MaLion」導入の決め手

他社と比べてユーザーサポートの質が優れていた点

評価版利用時にユーザーサポートを受ける機会があったが、他社製品と比べて「MaLion」の方がユーザーサポートの質が優れていると感じた。具体的には、メールでの問い合わせに対して返信のレスポンスが早い上に、原因究明のための提案も的確であった。サポート面のノウハウがしっかりと蓄積されている印象があり、今後継続して利用する上での安心感につながった。

ソフトウェアやPCの環境設定を一齐に配信できる点

ソフトウェアのパッチや各種設定の適用については、これまでActive Directoryのグループポリシー機能を利用して行っていたが、適用されるまでに時間がかかったり、失敗した場合のリトライ機能がなかったりと十分な手段とは言えなかった。「MaLion」のファイル/ソフトウェア配布機能ならリトライの設定ができ、実行状況（進捗）もわかるため、緊急性の高いパッチの適用などを含め幅広く活用できると感じた。

Macの管理に対応していたり、操作性に優れていたり利便性に優れている点

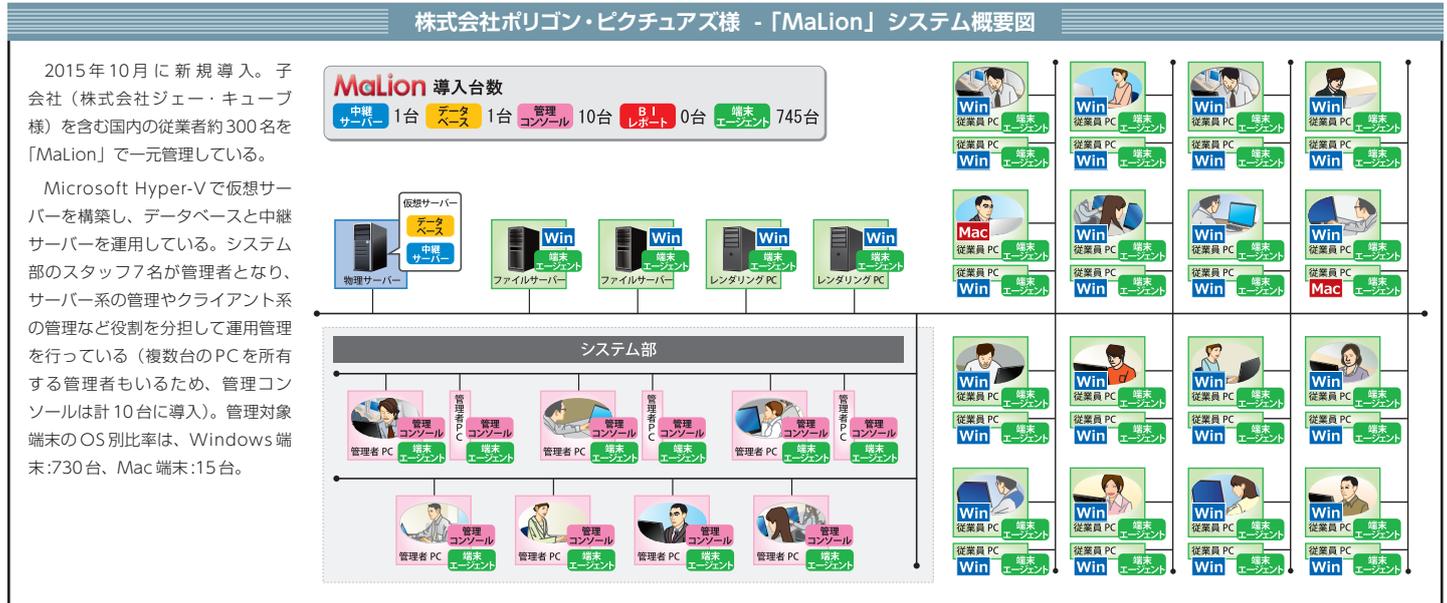
社内のMac端末は少数のためMac端末の管理機能は必須ではなかったものの、WindowsとMacの両端末を一元管理できる点は、選定時の後押しとなった。また次に呼び出したい機能がたいてい右クリックメニューに用意されており、迷うことなく操作できる点も良かった。

導入の状況

合計745台のWindowsやMac PCに導入。管理者7名体制で運用

☑ 「MaLion」の導入状況について教えてください。

従業員PC（ワークステーション、ノートPC、Mac PC）およびレンダリング用PC（3DCGをレンダリングするための共用PC）、など、合計で745台の端末を「MaLion」で一元管理しています。運用管理はシステム部のスタッフ7名で行っています。



運用と効果

ソフトウェアインベントリを活用した無駄のない適正なライセンス管理を実現

☑ 現在、「MaLion」をどのようにご利用いただいていますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

“導入の経緯”でも触れましたが、もともとソフトウェアのインストール状況の確認など、IT資産管理面で不都合を感じていましたので、「MaLion」の導入によってそれらが解消されました。

例えば、弊社ではプロジェクトごとにCG制作に必要なソフトウェアの起動ボタンを集約したランチャーを用意して制作業務の効率化を図っています。新たなソフトウェアが必要になった際、開発部門の従業員はランチャー上に該当のソフトウェアの起動ボタンがなければ、自身のワークステーションにインストールされていないと判断してシステム部へ問い合わせる習慣があります。「MaLion」の導入前は、インストールディスクを持って該当の従業員のワークステーションのところまで行き、インストール作業を始めようとしたら既にそのソフトウェアが導入済みであることがわかったというケースが何度かありました。「MaLion」の導入により、このような問い合わせに対しても従業員の業務を中断することなく、自席からソフトウェアのインストール状況を確認して新たにインストールが必要かどうか判断できるようになりました。

また一度に180台ものワークステーションの入れ替え作業を行う機会があったのですが、その際、ライセンスの無駄を整理するために各端末の導入済みソフトウェア情報を「MaLion」で抽出/出力して活用しました。各従業員に出力した導入済みソフトウェア一覧を見せて、今後必要なソフトウェアを再度確認させた上でソフトウェアの再インストール作業を進めました。従業員も自身の端末にどんなソフトウェアが入っているのかすべて把握しているわけではありません。あらかじめ一覧をこちらで用意した上で、最近利用しているソフトウェアであるかどうかを選択してもらいながら進められたのは効率的だったと感じています。

その他、弊社ではCG制作に関連したプラグインの利用も多いため、「MaLion」のインストール不要ソフト導入状況収集機能も有効活用しています。プラグインはWindowsの“プログラムの追加と削除”に出ないため管理を忘れがちですが、この機能を利用することでプラグインの適正な管理につながっています。



システム部サポートグループ システムエンジニア
塩月 祐基 様

☑ その他、「MaLion」の情報漏洩対策機能のご利用についてはいかがでしょうか。

情報漏洩対策については、何かあった際の原因究明のために現状、各種PC操作ログの収集を「MaLion」で行っています。USBメモリなど外部デバイスの接続制御に関して、現状ではActive Directoryのグループポリシー機能を利用して行っています。ただWindows 端末しか制御できないなどの制限がありますので、近い将来、「MaLion」を使った制御に切り替えていく予定です。

●開発・販売

株式会社 **インターコム**

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769

中部営業所 〒456-0018 名古屋市中区新栄 1-6-9 TEL: 052-678-3901

西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>

User Profile

会社名：太陽インキ製造株式会社
 所在地：〒355-0215 埼玉県比企郡嵐山町大字平澤900 番地
 設立：1999年8月5日 資本金：4億5,000万円
 代表者：代表取締役社長 佐藤 英志
 主な事業内容：プリント配線板（PWB）用部材およびフラットパネル・ディスプレイ（FPD）用部材の開発製造・販売
 「MaLion」ご導入台数：400台



ホームページ

<https://www.taiyo-hd.co.jp/jp/group/ink/>

IT資産の大幅な入れ替えの際も、「MaLion」の台帳機能で効率良く管理ができそうです。

スマートフォンやノートパソコンなどの電子機器に使用されているプリント配線板。その表面を覆い、電子回路を保護する絶縁層となるソルダーレジストの製造において高いシェアを誇る太陽インキ製造株式会社様。ハードウェアやソフトウェアの導入、バージョン管理など社内のIT機器にまつわる運用管理を管理部が一元的に担うことで、全社的なPCセキュリティの維持やIT資産の有効活用を実施されています。

「MaLion」をご導入いただいて約1年半が経過しましたが、当時ご導入いただいた経緯や決め手などについて、管理部の福村様、藤森様に伺いました（2016年7月取材）。



斬新な和風の会議室

導入の経緯

保守更新のタイミングで、IT資産管理の効率化を目的に乗り換えを検討

まずは、新たなIT資産管理ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

弊社では、以前から「MaLion」とは別のIT資産管理ツールを利用していました。このツール自体は管理部の前任者が従業員の操作監視を目的として導入したのですが、操作が複雑であるために私達が運用を引き継いだからは、正直効果的に活用できていませんでした。その一方で、社内のIT資産管理はMicrosoft Excel上で作成した台帳で管理していましたが、手動による更新となりますので、効率性や正確性といった面で課題がありました。

そんな中、IT資産管理ツールが保守更新のタイミングとなりました。そこで、これを機にIT資産管理における運用面の効率化を主目的として、情報漏洩対策にも活用できるようなツールを新たに探すことにしました。



管理部 担当部長 福村 武志 様

ツールの選定はどのように進められたのでしょうか。

まずはセキュリティ関連の展示会に足を運んだり、取引のあるSierにご提案をいただいたりする中で「MaLion」を含む5製品を候補としました。次に、機能の詳細や使い勝手などについて各製品の評価版を利用して確認しました。マニュアルを見ないと管理画面の操作がわからないものや、オプション機能の追加で費用が膨れ上がった製品は候補からはずし、最終的に残ったのが「MaLion」でした。

「MaLion」をご選定いただいた「決め手」についてもう少し詳しくお聞かせください。

「MaLion」を選定したポイントは大きく次の3点です。トータルコストに対して、機能や使いやすさなど様々な要素が最もバランスよく整っているのが「MaLion」だと感じました。

「MaLion」導入の決め手

管理画面がわかりやすく、使い勝手が良い点

「MaLion」の管理コンソールは、ほとんどマニュアルを見なくても直感的に操作でき使いやすと感じた。試用した製品の中には、対照的にマニュアルを見ないとほとんど操作できない複雑な製品もあったため、「MaLion」の操作性の良さは印象に残った。

充実した標準機能でコストパフォーマンスに優れている点

選定の際は、導入してすぐに利用する予定の機能だけではなく、将来的に利用したい機能も含めて必要とする機能がすべて網羅されているのかを考慮した。「MaLion」には、当社で必要性を感じた機能がほぼ網羅されておりコスト面のバランスも良いと感じた。他社製品でも、オプション機能を組み合わせることで「MaLion」と同等の機能を揃えることはできたが、トータルコストが膨れ上がってしまい当社で利用するには現実的でなかった。なお保守費用も「MaLion」は他社製品より安価であり、ランニングコストを考慮してもコストパフォーマンスが高いと感じた。

リモートコントロール機能が便利で重宝した点

他社製品がオプション扱いで追加費用が発生する中、「MaLion」では標準搭載している機能の一つにリモートコントロール機能があった。試用してみると自席で従業員のPCと同じ画面を見ながら説明ができるため、社内ヘルプデスク用途で効果的に利用できると感じた。当初必須と考えていた機能ではないが、非常に有用な機能であり決め手の一つとなった。

導入の状況

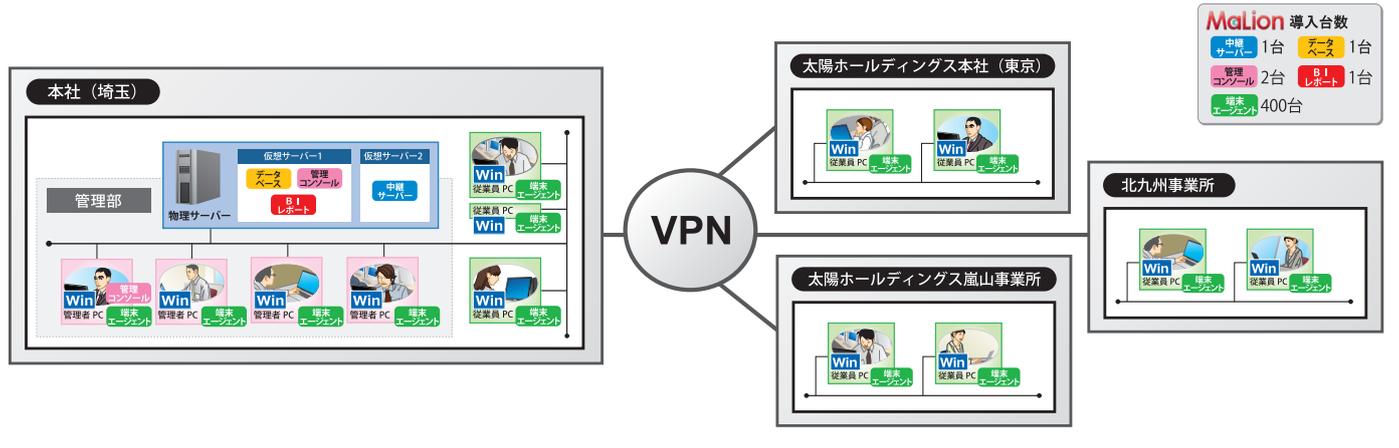
合計400台のWindows PCに導入。管理者4名体制で運用

☑ 「MaLion」の導入状況について教えてください。

太陽インキ製造株式会社の事業拠点に加え、親会社である太陽ホールディングス株式会社の事業拠点を「MaLion」で一元管理しています。合計400台のWindows PCを管理部のスタッフ4名で運用しています。

太陽インキ製造株式会社 - 「MaLion」システム概要図

2015年2月に「MaLion (Ver.4.2)」を導入。データベースや中継サーバーは、VMwareによる仮想サーバー上に構築している。また管理者の操作画面となる管理コンソールやBIレポート機能は、自席ではなく一部の管理者を除き、仮想サーバー側にインストールしたものをリモートデスクトップにより共用している。各事業拠点はそれぞれ異なるネットワークセグメントだが、ネットワーク監視(持込PCなどの不正な接続監視)を「MaLion」ではなく別の仕組みで行っているため、中継サーバーは1台のみで他のPCにネットワーク監視機能の代理設定も行っていない。



運用と効果

IT資産台帳やリモートコントロールを活用し、システム管理業務の効率化を実現

☑ 現在、「MaLion」をどのようにご活用いただいていますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

“導入の経緯(表面)”でも触れましたように、まずは「MaLion」のIT資産管理機能の活用から始めました。自動収集されたインベントリ情報を基に、ハードウェア台帳およびソフトウェア台帳が作成されます。すでに社内で発行している各機器の管理番号を登録することで、管理番号と紐付けた管理ができるようになりました。さらに保有するソフトウェアライセンス情報を登録し、ライセンス総数の管理も「MaLion」上でできるようになりました。

これまでハードウェア台帳やソフトウェア台帳など、それぞれ個別のExcel台帳で管理していました。例えば、リプレイスによるPCの入れ替えの際に各台帳の更新作業が発生していましたが、「MaLion」の台帳であれば、新しい資産の情報は自動収集される上に古い資産の廃却登録や新しい資産の使用者登録なども簡単にできるため、更新作業一つとっても十分な効率化につながります。さらに、弊社ではプライベートIPアドレスを各PCに固定で割り振っていますが、「MaLion」であれば、プライベートIPアドレスとPCが紐付いた形で資産情報を収集できます。仮にPCの入れ替えによりIPアドレスを変更した場合にも柔軟に対応できる点が重宝しています。「MaLion」の導入後、今のところ大きなIT資産の導入/入れ替えはありませんが、例えば近い将来、社内のMicrosoft Officeを最新版の2016へアップグレードする際など非常に効率良く台帳処理ができると思います。



管理部 企画課 情報セキュリティスペシャリスト / ITサービスマネージャ 藤森 秀雄 様

☑ それでは、情報漏洩対策機能などIT資産管理以外の機能のご活用についてはいかがでしょうか。

社内PCの操作監視については、万が一情報漏洩事故が起こった際の証拠確保のために各種操作ログの収集を行っています。操作制御については現状行っていません。社内の機密情報については、「MaLion」とは別のシステムで以前から管理しています。権限を持つ一部の従業員以外は機密情報へのアクセスができませんので、漏洩の心配はまずないと考えています。ただこれまで運用を進めるなかで、“私用USBメモリの利用制御”や“オンラインストレージの利用制御”については、操作制御の必要性を感じており、今後「MaLion」で実現しようと考えています。

その他IT資産管理以外の機能では、“導入の決め手(表面)”でも触れましたようにリモートコントロール機能を活用しています。例えば、当社では従業員にユーザー権限のみを与えており、ソフトウェアのインストール作業は都度管理部で行っています。その際、自席からインストール作業を実行でき業務効率化につながっています。

●開発・販売

株式会社 インターコム

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769
 中部営業所 〒456-0018 名古屋市中区新栄 1-6-9 TEL: 052-678-3901
 西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：三晃印刷株式会社
 所在地：〒162-8530 東京都新宿区水道町 4-13
 設立：1928年4月 資本金：1億円
 代表者：代表取締役社長 金子 達夫
 従業員数：254名（2015年4月現在）
 主な事業内容：出版印刷（週刊誌、月刊誌、書籍など）、商業印刷（カタログ、パンフレット、チラシ、ポスターなど）
 「MaLion」ご導入台数：150台



ホームページ

<http://www.sanko-printing.co.jp/>

**業務外の Web アクセスが減っただけでなく、
情報セキュリティに対する従業員のリテラシーが向上したのも大きな導入効果です。**

創業以来、80年以上の歴史と実績を誇る三晃印刷株式会社様。時代に応じた印刷ニーズにいち早く対応するために、積極的な業務改善やインフラ改善を図っておられます。近年急速に進むデジタル化の波は印刷業界においても大きな改善を迫られています。特にまだ世に出ていない商業キャラクターの印刷物などお客様の重要なデータを取り扱うケースも多く、デジタル対応の一環として、情報セキュリティへの厳重な対応は欠かせません。「MaLion」をご購入いただいて1年ほど経過しましたが、当時ご購入いただいた際の経緯や決め手などについて、経理部計算課の角谷様にお話を伺いました（2015年4月取材）。

導入の経緯

ネットワーク機器の刷新と併せ、Web アクセス制御に対応したツールの導入を検討

まずはPC 運用管理ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

今から1年ほど前にネットワーク機器の更新時期を迎えたため、全面刷新を行うことになりました。原稿の入稿形態もFTP サーバーなどを経由したデジタル入稿が増える中、ネットワーク環境の高速性や冗長性の確保は弊社にとって欠かせません。その意味で、機器更新のタイミングはさらなる改善に向けた重要な機会と捉えていました。

また弊社では、お客様の印刷データを取り扱う生産部門のPCに対して、セキュリティの観点からインターネットアクセスをネットワークスイッチ上ですべて制限しています。ところが、あるソフトウェアの最新版を利用する際に、インターネットへの接続環境がないと利用する上で不便な機能が搭載されていることがわかりました。

そこでネットワーク機器の刷新を機に、特定のサイトのみアクセスを許可するようなWeb アクセスの制御機能を搭載したPC 運用管理ツールの導入を検討することにしました。



経理部計算課 課長補佐 角谷 巖 様

ツールの選定はどのように進められたのでしょうか。

もともとネットワーク機器を刷新するにあたり、運用保守の面での効率化を踏まえて、取引のあるSierの方からあるネットワーク監視ツールの導入を勧められていました。そちらのツールにもWeb アクセスの制御機能は搭載されていたのですが、新たに「MaLion」をご提案をいただいた際、Web アクセス制御機能に加えて、外部デバイスの接続制御機能やIT 資産管理機能など将来的に利用を検討したいと考えていた機能も備わっていることがわかりました。最終的には、総合的なPC 運用管理ツールとして機能が充実していた「MaLion」を導入することにしました。



習志野工場には多彩な印刷設備を備える

「MaLion」をご選定いただいた「決め手」についてもう少し詳しくお聞かせください。

導入を検討するきっかけとなったWeb アクセス制御機能は両ツールにありましたので、最終的に「MaLion」を選定したポイントとして次の3点が挙げられます。搭載機能が豊富であり、様々な視点でPC 操作監視を行うことができるため、今後末長く使い続けていくには良いツールだと思いました。

「MaLion」導入の決め手



WindowsとMacの両PC 管理に対応していた点

漫画の印刷データや電子書籍などのコンテンツデータはWindows 環境での作業が多い一方、書籍や雑誌など一般的なDTPの印刷データはMac 環境での作業が多い。そのため生産部門のPCはWindowsとMacの両PC が混在している。「MaLion」は、WindowsとMacの両PC を一元管理できるため、弊社PC 環境の管理には適していた。



外部デバイス監視やIT 資産管理などの有益な機能にも対応していた点

USB メモリの利用制限やIT 資産管理のシステム化も近い将来実現したいと考えていた。「MaLion」にはこのような弊社にとって潜在的に必要としている機能も備わっており、将来的にも有効活用できそうなツールであると感じた。



各種操作監視機能を都度購入するよりもコストパフォーマンスが良かった点

「MaLion」は、比較検討したもう一方のツールよりも値段は高かったものの、標準機能として各種操作監視機能やIT 資産管理機能が揃っているため、機能の充実度を踏まえると、むしろコストパフォーマンスの高いツールであると感じた。

導入の状況

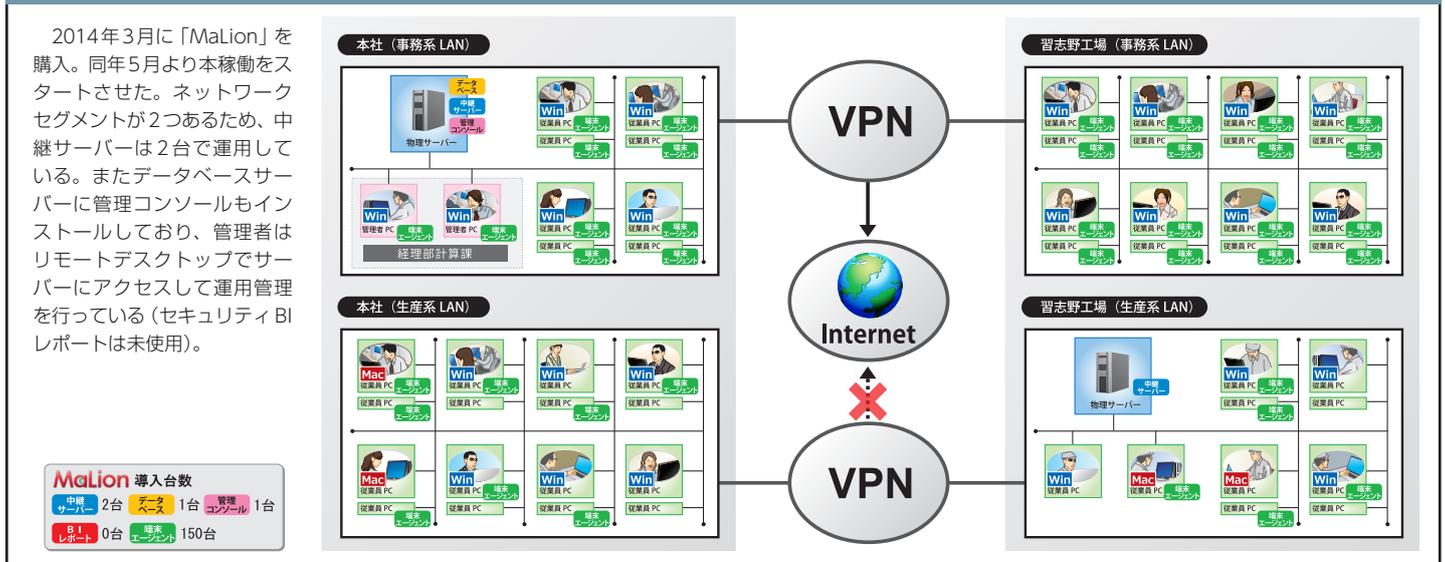
Windows PCとMac PCの合計150台に「MaLion」を導入

「MaLion」の導入状況について教えてください。

本社と習志野工場を併せ、合計150台のクライアントPCを「MaLion」で一元管理しています。運用管理は計算課のスタッフ2名で行っています。

弊社のネットワークは、お客様の印刷データを取り扱う生産部門が利用する生産系のネットワークセグメントと、営業部門や管理部門など一般社員が利用する事務系のネットワークセグメントで構成されています。生産系のネットワークは情報漏洩リスクを最大限配慮し、特定の端末を除きWebアクセスやメール送受信といったインターネットの活用をネットワークスイッチ上で原則禁止しています。一方、事務系のネットワークは取引先とやり取りする上でメールやWebは欠かせませんので、インターネットの活用は原則許可しています。外部デバイスの接続も会社で支給したUSBメモリについては利用を許可しています。両ネットワークの運用ポリシーに沿った上で、ネットワーク機器の機能では補えない個々の端末の操作制御を「MaLion」を利用することで実現しています。

三晃印刷株式会社様 - 「MaLion」システム概要図



運用と効果

情報セキュリティに対する従業員のリテラシーが大幅に向上

現在、「MaLion」をどのようにご活用いただいていますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

まずWebアクセスの制御について、生産系ネットワークでは「導入の経緯」でも触れましたように、一部のソフトウェアの仕様上、インターネットへの接続が必要なPCについてのみ「MaLion」を利用して該当するWebサイト以外はアクセスを禁止しています。事務系ネットワークでは、業務上必要がない上に情報漏洩リスクがあると判断されるWebサイトを弊社で独自に調査し、一部のPCを除きこれらのWebサイトへのアクセスを「MaLion」で禁止しています。



次に外部デバイスの接続制御について、生産系ネットワークでは現状すべてのPCに「MaLion」を導入していませんので、規程類でCD/DVDやUSBメモリなどへの書き込みを禁止しています。事務系ネットワークでは、会社で用意したUSBメモリは利用を許可し、その他外部デバイスへの書き込みは禁止する形を「MaLion」によって実現しています。なお、その他PC操作についてはログ収集のみを行い、万が一警告通知があれば即対応できる形をとっています。

導入効果としては、業務に関係のないWebアクセスが大幅に減りました。これは具体的に制限をかけていることに加え、従業員の意識の面からも業務外のWebアクセスをしないことが徹底されてきているように感じています。また、例えばお客様と一時的に大容量のデータをやり取りしたい場合にフリーのオンラインストレージサービスを利用しても良いのかなど、緊急時のイレギュラーなPC操作に対して以前は従業員が勝手に判断してしまう傾向にありました。最近では、勝手に判断することなく計算課に必ず確認をとる習慣がついてきたように感じています。このような情報セキュリティに対する従業員のリテラシーの向上も、「MaLion」の導入効果であると考えています。

その他、「MaLion」の機能で重宝しているものがあればお聞かせください。

従業員に対する社内ヘルプデスクも計算課の業務の一つですが、その際、「MaLion」のリモートコントロール機能が非常に役立っています。これまではWindowsのリモートデスクトップを利用して該当の社内PCにアクセスしていました。自席からヘルプデスクの対応ができるという利便性はこれまでもありましたが、リモートコントロール中は従業員のモニターに何も映らないため、操作面の教育といった部分では機能不足の印象がありました。「MaLion」の場合、リモートコントロール中の画面を管理者と従業員で共有できるため、内線電話を併用し、相手に操作教育をしながらトラブルに対応できる点は便利であると感じています。

●開発・販売

株式会社 インターコム

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769
 中部営業所 〒456-0018 名古屋市熱田区新尾頭 1-6-9 TEL: 052-678-3901
 西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：株式会社アグレックス
 所在地：〒163-0216 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
 設立：1965年9月9日 資本金：12億9,200万円
 代表者：代表取締役会長 上野 昌夫、代表取締役社長 山口 勝規、代表取締役専務執行役員 西本 博明
 従業員数：2,344名
 主な事業内容：BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）サービスの提供、SS（ソフトウェアソリューション）の開発・提供、
 SI（システムインテグレーション）サービスの提供
 「MaLion」ご導入台数：310台（SI事業部）



ホームページ <http://www.agrex.co.jp/>

それまで1週間かかっていた IT資産の棚卸業務が1時間でできるようになり、業務時間の大幅な短縮につながっています。

SI（システム インテグレーション）やBPO（ビジネス プロセス アウトソーシング）など、ITにまつわる高度なサービスを展開されている株式会社アグレックス様。業務上、SI事業部の従業員の半数以上がPCを社外へ持ち出す中、「MaLion」の明確な運用設計書に基づき、分散管理体制による徹底したIT資産管理と情報漏洩対策を実践されています。

今回、最初の部門（SI事業部）導入から約1年が経過しましたが、当時ご導入いただいた際の経緯や決め手などについて、SI事業部の藤田様、西尾様にお話を伺いました（2014年9月取材）。

導入の経緯

IT資産の棚卸作業における効率化や、USBメモリの接続監視を強化したかった

まずは「MaLion」の導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

SI事業部では、Windows OSなど一部の資産を除き、原則部門単位でIT資産管理を実施しています。これまで各部門での管理手段については、部門内の管理担当者に一任していました。そのためフリーのインベントリ収集ツールを利用したり、あるいは従業員の申告に基づいて行ったりと様々でしたが、いずれの場合も人的ミスによるメンテナンス漏れの心配がありました。また業務上、事業部内の半数以上の従業員が常々外出しているため、各部門の管理担当者の作業効率を考えると十分とは言えませんでした。



SI事業部 インフラサービス部 マネージャー
藤田 孝 様

情報漏洩対策の面で、何かご検討されたきっかけはありましたか。

弊社ではISMSを取得していることもあり、社内のセキュリティ規程の中でUSBメモリによるデータの持ち出しに対しては、管理の必要性が明確に定められています。これまでもUSBメモリの利用については、各部門にUSBメモリを支給し、会社で支給したもの以外は利用を禁止していました。

ただあくまでルール化の範囲に留まっていたので、実際に規程に沿った運用がなされているのかどうかの実態把握まではできていませんでした。一部のPCについては、レジストリの設定によりUSBメモリへのデータ書き出しを自動的に制限していましたが、PC1台ごとに設定作業が必要となるため、設定状況の確認や切り替え作業などの手間を考えると、300台以上の端末にすべて適用するのは現実的ではありませんでした。

このように、IT資産管理・情報漏洩対策の双方の面で、効率化と厳正化を進めるべく「MaLion」の導入を検討することにしました。

他のツールと比べて、「MaLion」のどのような点が良かったでしょうか。

「MaLion」が他のツールと比べて良かったポイントは次の2点です。搭載機能の有無としては各ツールとも大差はないので、実際に試用した上で運用上の利便性の高いツールが弊社にとっては「MaLion」でした。

「MaLion」導入の決め手



直感的にイメージしやすい管理画面のため、使い勝手が抜群に良い点

「MaLion」は、使い慣れたエクスプローラー風の画面構成で使いやすいと感じた。さらに右クリックメニューから必要な機能呼び出せる点も使いやすい。また他社ツールは多くは一部の監視機能をオプションで提供していることもあって、それぞれの機能が統一した画面の中で操作できず、都度異なる別の画面から操作する必要がある。その点、「MaLion」はすべての機能が同一画面から使用できるため分かりやすいと感じた。

SI事業を営む関係で、一般的な企業と比べて管理者のITリテラシーは高い方だと思うが、それでも、操作性の高さは導入を左右するポイントの一つであると考えている。



標準機能が充実している点

「MaLion」は標準機能として、各種操作監視機能やIT資産管理機能がすべて揃っているため、例え、導入当初は一部の機能のみで運用を続けたとしても、将来、使用する機能を増やそうと思った際に追加コストがかからない点に安心感があった。特に初めてツールを導入する場合、運用を続ける中で必要とする対策が見えてくる場合があるため、その時々でオプション機能の購入を検討するよりも各機能があらかじめ備わっている方が、管理者としては自由度が高い。

導入の状況

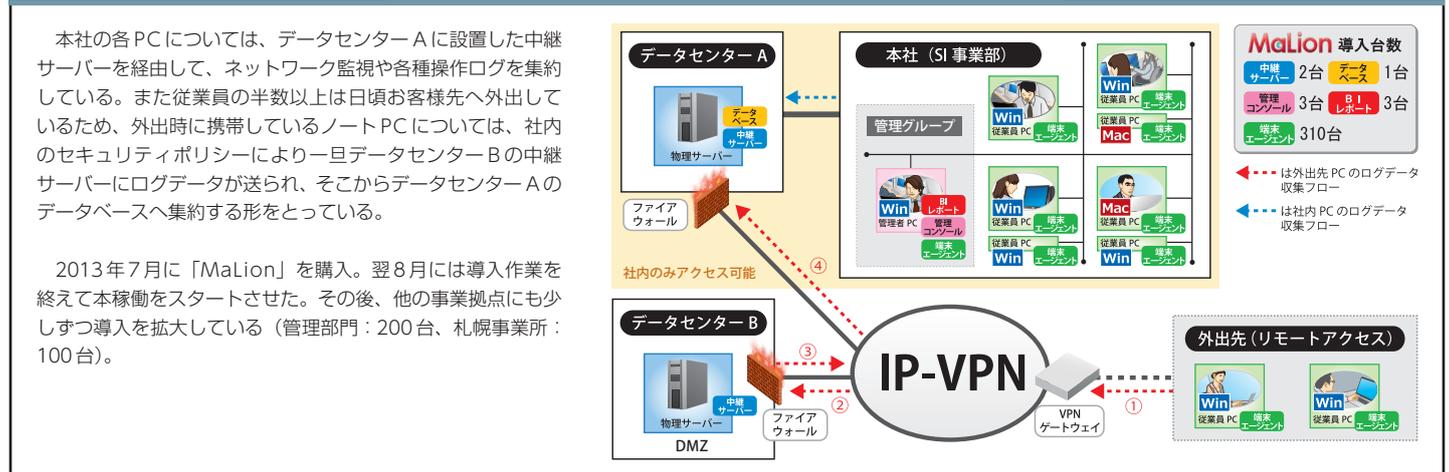
Windows PCとMac PCの合計310台に「MaLion」を導入

☐ 「MaLion」の導入状況について教えてください。

現在、SI事業部では全体で約310台（Windows 308台、Mac 2台）のクライアントPCを「MaLion」で一元管理しています。「MaLion」の導入に伴って作成した運用設計書に基づき、日々の運用を行っています。

「MaLion」の運用主体である管理グループからSI事業部内の各部門（全6部門）の管理担当者に向けて、毎月初3営業日までに3種類のレポート（禁止操作発生状況一覧、ハードウェア資産一覧、ソフトウェア資産一覧）を「MaLion」のレポート機能で発行します。これをもとに各担当者は部内に注意喚起や是正を行って、その結果を再度管理部へフィードバックするというサイクルで定期的な運用改善を図っています。

株式会社アグレックス（SI事業部）様 - 「MaLion」システム概要図



運用と効果

IT資産管理と外部デバイス制御について、管理精度の向上や効率化を実現

☐ 現在、「MaLion」をどのようにご活用いただいていますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

IT資産管理については、ハードウェアやソフトウェアのインベントリ収集を「MaLion」で自動化しています。「導入の状況」のところでも触れましたが、管理グループが部門別にレポートを出力して、それをSI事業部内の各部門に配布し、部門管理に活用しています。なおIT資産の管理台帳については、「MaLion」の台帳機能ではなく従来通りExcelベースの台帳を活用しています。

導入効果としては、IT資産の棚卸作業時間を大幅に短縮することができました。従来1週間程度かかっていたのが、「MaLion」の導入により1時間程度でできるようになりました。従業員の半数以上はお客様先へ外出しており、棚卸の際に社内存在しないPCが多数だったため、以前はIT資産の確認に多くの時間を必要としていました。「MaLion」の導入によって、従業員の外出状況に関係なく常時インベントリ情報を確認できるようになったのが時間短縮の大きな要因となっています。



SI事業部 インフラサービス部 西尾 和将 様

☐ それでは、「MaLion」の情報漏洩対策機能についてはいかがでしょうか。

「MaLion」を導入するきっかけの一つだったUSBメモリの接続監視については、予定通り「MaLion」を使って監視をシステム化しています。会社で支給したUSBメモリ以外はすべて使用を制限でき、収集した操作ログから実態の把握も可能となりました。実際に「MaLion」の導入当初は、許可していないUSBメモリを誤って使用しようとした従業員もいましたが、現在ではそのような誤操作を行う従業員は出てきません。その意味では、「MaLion」で監視をシステム化したことが、従業員のセキュリティ意識の向上にもつながっているという実感があります。なおUSBメモリの接続に加えて、最近情報漏洩事件で話題となったスマートフォンの接続（PTP/MTP）についても、同様に「MaLion」で利用を制限しています。

その他のPC操作について、現状では制限をかけていませんが、Webアクセスなど一部の操作を除き、すべて操作ログを収集しています。証跡を残すという意味でも、各種操作ログを収集できていることは重要だと考えています。

☐ 最後に、「MaLion」に関する今後の運用方針についてお聞かせください。

現在は「MaLion」が実装する機能の一部しか使用していませんが、さらなる管理レベル向上のために、使用する「MaLion」の機能について見直しを図っていきたいと考えています。

●開発・販売

株式会社 インターコム

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769
 中部営業所 〒456-0018 名古屋市熱田区新尾頭 1-6-9 TEL: 052-678-3901
 西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：株式会社 TBS サービス
 所在地：〒107-8482 東京都港区赤坂 5-3-6 TBS 放送センター 18 階
 設立：1953年6月20日
 資本金：2 億円（株式会社東京放送ホールディングス全額出資）
 代表者：代表取締役社長 衣笠 幸雄
 従業員数：145 名（2014年6月18日現在）
 主な事業内容：イベント・映像およびエンターテインメントの企画・制作・運営、印刷関連業務、出版、番組コンテンツの販売、字幕制作など
 「MaLion」ご導入台数：250 台



ホームページ <http://www.tbss.co.jp/>

他のツールで別途費用が発生していた一部の操作監視機能やバージョンアップがすべて基本価格に含まれているので、非常に明瞭で助かっています。

番組コンテンツの販売や字幕制作、さらにはイベント運営、物販、印刷、出版など、TBS グループの中核企業として多様な事業を展開されている株式会社 TBS サービス様。メディアに関わる業種柄、幅広い分野での情報収集が必要とされる中、情報収集の柔軟性が担保された上での情報管理体制の構築に気を使っているようです。

「MaLion」をご購入いただいて1年以上が経過しましたが、当時ご購入いただいた際の経緯や決め手などについて、経営システム部の芳賀様、五味様に伺いました（2014年7月取材）。

導入の経緯

万が一トラブルが生じた際、原因を追跡できるよう PC 操作ログの収集が必要だった

☐ まずは「MaLion」を導入する以前のセキュリティ対策状況について教えてください。

「MaLion」を導入する以前にも同種の PC 操作監視ツールを利用していました。当時、ウイルスに感染したデータを従業員がうっかり自宅から USB メモリで社内へ持ち込んでしまったことがありました。既に導入していたウイルス対策ソフトによって該当のウイルスは駆除できましたが、そのファイルがどのような経路で社内に侵入したのかを追跡できるよう、PC 操作監視ツールを活用して従業員の操作ログを収集していました。



総務本部 経営システム部 部長 芳賀 龍治 様

☐ 以前から同種のツールをお使いだったようですが、「MaLion」に乗り換えるきっかけは何だったのでしょうか。

それまで利用していた PC 操作監視ツールをバージョンアップする際に見積りを取ったところ、思いのほかバージョンアップ費用が高額でした。そのツールでは一部の操作監視機能がオプションだったため、当社でも本体に加えて複数のオプション機能を追加購入していました。それらすべてがバージョンアップの対象となり、高額なバージョンアップ費用が必要となりました。

そんな折、取引のあったオフィス機器の販社の方から「MaLion」を紹介していただきました。それまで利用していたツールと同等以上の機能を当社の予算内で導入できるということで、「MaLion」に乗り換えることにしました。



総務本部 経営システム部 副部長 五味 宏之 様

☐ 「MaLion」に乗り換えられた際の“決め手”について、もう少しお聞かせください。

最終的に「MaLion」を選定した主なポイントは次の3点です。結局のところ“トータルコスト”の観点に集約されますが、各種操作監視機能の導入やバージョンアップにかかる費用などがすべて基本となる価格に含まれており、必要に応じて別途追加予算を検討する必要が無い点は非常に明瞭で助かっています。

「MaLion」導入の決め手



標準機能が充実しているため、オプション機能を利用する際に追加予算を考慮する必要がない点

「MaLion」には、以前利用していたツールでオプションとなっていた操作監視機能が標準搭載されていた。過去の経験上、仮に現在利用していない機能であっても、将来的に利用を検討する場合もあるため、あらかじめすべて揃っているのはありがたい。また「MaLion」の保守期間中であればメジャーバージョンアップも無料で行えるため、今後より良い機能が実装された場合にも、無料で導入できるのはありがたい。



Mac PC の管理に対応している点

当社では4台の Mac PC がクライアント端末として稼働している。以前利用していたツールでは Mac PC の管理は未対応だったため、Mac PC の操作ログは収集していなかった。「MaLion」に乗り換えたことで、すべてのクライアント端末の操作ログを一元管理できるようになった。



営業 / サポートスタッフの対応が丁寧であった点

「MaLion」を導入する際など、インターコムは営業やサポートスタッフの方から迅速かつ丁寧な対応をいただいた。導入する際の決め手になったわけではないが、このような支援体制の充実性も重要であると感じる。

導入の状況

Windows PC と Mac PC の合計 250 台に「MaLion」を導入

☐ 「MaLion」の導入状況について教えてください。

現在、当社では全体で約 250 台（Windows 246 台、Mac 4 台）のクライアント PC を「MaLion」で一元管理しています。運用は経営システム部のメイン管理者 2 名を中心に、計 5 名体制で行っています。

株式会社 TBS サービス 様 - システム概要図



中継サーバーは 1 台で運用。フロアごとにネットワークセグメントが分かれており、各セグメントの PC 1 台に代理設定を行うことでネットワーク監視を実現している。

2013年3月に「MaLion」を購入。当初は「MaLion」と既存の同種ツールを併用して様子を見ていたが、端末管理を「MaLion」で 1 本化するべく、情報漏洩対策・IT 資産管理のそれぞれについて運用ツールの移行を進めている。

運用と効果

“誰が” “何をしたのか” を追跡できるよう、各種 PC 操作ログを収集

☐ 現在、「MaLion」をどのようにご利用いただいていますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

セキュリティ対策については PC 操作ログの収集のみで運用し、操作制限は行っていません。例えば Web アクセス監視を例にとると、当社では業種柄、情報の確認・収集などで様々な Web サイトへのアクセスが必要となります。一般企業ではアクセスを制限するような Web サイトであっても、業務上アクセスが必要となる場合があります。そのため、特定の操作を制限するという運用ポリシーは、当社にとってあまり現実的ではありません。その代わりに、あらゆる操作ログを収集することで、“誰が” “何をしたのか” を追跡できるようにしています。

ちなみに、「MaLion」を利用して PC 操作ログを収集していることは社内に表示しています。これが従業員の不正な行為に対する一定の抑止効果につながっているという実感があります。

なおネットワーク監視機能については唯一制限をかけており、従業員が自宅から持ち込んだ PC を勝手に社内ネットワークに接続することのないようにしています。これは主にウイルスに感染したデータが社内を持ち込まれるのを防ぐことが目的です。



エントランスには、取り扱う映画や DVD などの告知チラシが並び

☐ 「MaLion」には IT 資産管理機能もございますが、こちらについてはいかがでしょうか。

IT 資産管理機能については、現状インベントリ収集のみで台帳機能などはまだ本格的に活用していません。当社ではこれまで Microsoft Access で作成した自前の資産管理データベースで IT 資産の管理を行っていました。今後はセキュリティ対策と併せて「MaLion」で管理を一本化するべく、保有しているライセンスの登録や、ライセンスの消費に対して該当の端末に「MaLion」上でライセンスの突き合わせを行うなど、本格的な移行に向けた準備を少しずつ進めているところです。

☐ 最後に、「MaLion」に関する今後の活用方針についてお聞かせください。

「MaLion」のできることを再度洗い出した上で、セキュリティ対策に関する運用体制の見直しを図りたいと考えています。今後「MaLion」で管理を一本化するのであれば、「MaLion」で効率よく運用できることを最優先に、これまでの運用ルールにとらわれることなく適正な形に整備していきたいと思っております。

●開発・販売

株式会社 **インターコム**

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL : 03-3839-6769
 中部営業所 〒456-0018 名古屋市熱田区新尾頭 1-6-9 TEL : 052-678-3901
 西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL : 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>

User Profile

会社名：株式会社求人ジャーナル
所在地：〒370-0031 群馬県高崎市上大類町 1033
設立：1986年7月 資本金：2,500万円
代表者：代表取締役社長 箱田 好男
主な事業内容：求人広告事業、住宅・タウン情報広告事業
「MaLion」ご導入台数：450台



ホームページ <http://www.journal.co.jp/>

充実した機能群に加え、当初要件から外していた Mac PC の管理にも対応していたため、土壇場で「MaLion」に決め直しました。

北関東圏最大の発行部数を誇る「求人ジャーナル」など、求人広告を中心とした出版およびインターネットサービスを展開されている株式会社求人ジャーナル様。6万社以上の法人顧客を抱え、例えば出版物の印刷は自社印刷工場に徹底されるなど、顧客情報の取り扱いに関して以前から慎重を期されています。

約1年前に情報漏洩対策のシステム化などを主目的として「MaLion」をご購入いただきましたが、当時ご購入いただいた際の経緯や決め手などについて、情報システム課の柳様、井田様、下山様に伺いました（2014年3月取材）。



「求人ジャーナル」などの多様な情報誌を発行

導入の経緯

手動で対応していた情報漏洩対策やIT資産管理をシステム化するにあたってツールの導入を検討

まずはPC運用管理ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

そもそも弊社では、Pマークの取得/運用に伴って個人情報の取り扱いに関する社内規程を明確に定めていました。ただ情報セキュリティに対する意識は従業員によって個人差があるため、リスク対策に関する次のステップとして、ツールの導入による情報セキュリティ体制のシステム化を検討していました。

またIT資産管理については、当社の各営業拠点に担当者を設け、IT資産の棚卸を行う際は、各担当者から受けた報告を情報システム課でExcel上の台帳に取りまとめて管理していました。そんな中、複数のソフトウェアベンダーから立て続けにライセンス監査を受けることになりました。監査自体は無事にクリアしましたが、限られた時間の中での対応に大きな労力を要しました。この経験から、IT資産管理についてもシステム化を検討することにしました。



情報システム課 係長 井田 啓明様

PC運用管理ツールのご選定についてはどのように進められたのでしょうか。

以前より、次のステップとしてツールの導入を想定していましたので、どんなツールがあるのか簡単なりサーチは情報システム課内で行っていました。実は当初、「MaLion」以外の2種類のツールを既に候補として目途を付けていました。候補ツールの一方は、実装機能自体は充実していたものの価格面では大分当社の予算とかけ離れていました。もう一方のツールは実装機能に少々見劣る点はありませんでしたが、価格面は予算の範囲内でしたので、このツールでほぼ導入が内定していました。

ところがこの後、情報セキュリティ関連の展示会を回った際にちょうど「MaLion」のご提案をいただき、これがきっかけで早々に「MaLion」を導入することに決めました。

土壇場で「MaLion」のご選定に至った“決め手”について、ぜひお聞かせください。

最終的に「MaLion」を選定した主なポイントは次の2点です。特にMac PCの管理機能については比較した他のツールと比べても完成度が高く、「MaLion」を選定する有効な決め手となりました。

「MaLion」導入の決め手



Mac PCの管理機能が充実していた点

当社ではクライアント端末として約20台のMac PCが稼働しているものの、Windows PC向けのツールが市場の大半を占める中、ツールによるMac PCの管理は当初必須要件から外していた。ところが「MaLion」では、必要十分な機能が実装されている上にWindowsとMacの両PCを一元管理できるため、土壇場で選定を見直す大きなポイントとなった。



充実した機能群に加え、価格面も適正であった点

少なくとも当社が最終的に比較した3種類のツールの中で、機能面と価格面のバランスが最もマッチしていたのが「MaLion」だった。「MaLion」は、当社にとって必要な機能が一通り実装されている上に、価格面も当社の予算の範囲に収まっていた。

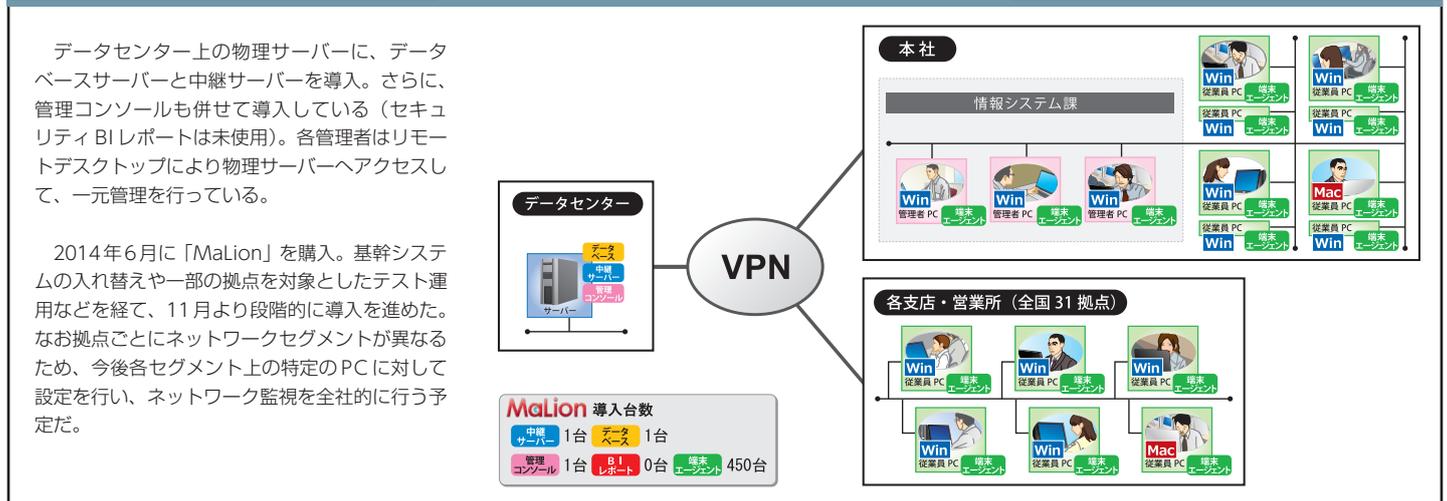
導入の状況

Windows PCとMac PCの合計450台に「MaLion」を導入

☐「MaLion」の導入状況について教えてください。

現在、当社では全体で約450台（Windows 約430台、Mac 約20台）のPCが稼働しています。一部PCを除きすべて「MaLion」で一括管理しています。「MaLion」の運用は情報システム課（3名体制）で集中的に行っています。

株式会社求人ジャーナル 様 - 「MaLion」システム概要図



運用と効果

「MaLion」導入の社内公開とログ収集により、従業員のセキュリティモラルを向上

☐現在、「MaLion」をどのようにご利用いただいていますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

情報漏洩対策機能については、現在のところ操作ログの収集のみで運用し、操作制御の適用については様子を見ています。私達管理者が膨大な操作ログの中から本当に重要なログを見落とすことの無いよう、ログの収集についても違反操作のあったものに絞って行っています。普段はすべてのログを収集していませんが、例えば違反操作が多く挙動の怪しい従業員がいる場合、あるいは退職の決まった従業員がいる場合などは、一定期間すべてのログを収集して監視を強化するようにしています。

ちなみに収集したログを見ていると、例えばUSBメモリを接続した際の状況が外部デバイス監視ログから確認できます。仮に内部データの不正な持ち出しがあった場合、収集したログをさかのぼることで原因の究明に生かすことができるため有効だと思いました。

その他、導入時の端末エージェントのインストールは、管理者側からのプッシュインストールではなく、あえて各従業員に手動で行ってもらおうようにしました。従業員自身がインストールを行うことで、監視されているという意識が高まり、セキュリティモラルの向上につながっていると思います。



情報システム課 下山 智広様

☐「MaLion」のIT資産管理機能について、ご利用の状況はいかがでしょう。

現状は、「MaLion」のIT資産管理機能とこれまでのExcel台帳を併用する形で運用しています。一部、端末エージェントの導入を見送っていたPCについても、来月にはすべて導入を完了させる予定です。端末エージェントの導入がすべて終わったタイミングで「MaLion」の台帳へ切り替えられるよう、保有ライセンスの情報を台帳に登録するなどの準備を進めています。

ちなみに、ソフトウェアインベントリを自動で収集していることも社内には開示していますので、例えば提供元が不明なフリーソフトはインストールしないなど、ソフトウェアの不正な導入についても一定の抑止効果につながっている実感があります。

☐最後に、「MaLion」に関する今後の活用方針についてお聞かせください。

まず、先ほど挙げましたように社内のIT資産管理を「MaLion」で1本化していきます。情報漏洩対策については、現状ログ収集のみとしていますが、USBメモリの利用監視とネットワーク監視は一部制御ポリシーを適用しようと考えています。その他、スマートデバイスの管理についても「MaLion」で一元化していきます。

●開発・販売

株式会社 **インターコム**

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769

中部営業所 〒456-0018 名古屋市熱田区新尾頭 1-6-9 TEL: 052-678-3901

西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：財団法人東京ケーブルビジョン
 所在地：〒169-0072 東京都新宿区大久保 1-3-21 新宿 TX ビル 5F
 設立：1970年1月13日
 出損金：3億4,700万円
 代表者：理事長 山口 睿樹
 主な事業内容：有線によるテレビジョン放送の再送信およびこれに付随して行う役務の提供、インターネット接続サービスなど。



ホームページ <http://www.tcv.or.jp/>

「所内に散在する個人情報ファイルの一齐検出から、台帳での一元管理、アクセス制御までワンストップで実現できる点が導入の決め手でした。」

東京都新宿区内のケーブルテレビ事業を運営する財団法人東京ケーブルビジョン様。都市部におけるテレビの受信障害が課題となる中、1970年1月の設立より、まさに国内都市型ケーブルテレビ局の草分けとして今日まで歩まれています。個人情報検出・管理システムの「MaLion」と「P-Pointer」をご導入いただいて約2か月が経過しましたが、ご導入いただいた経緯や決め手などについて伺いました(2013年4月取材)。

導入の経緯

Pマーク運用時と同等の個人情報管理体制を敷く上でシステム化が重要だった

まずは情報漏洩対策ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

当財団における情報漏洩対策は、複数の部門の担当者によって構成される情報セキュリティ委員会が主管となって運用を行っています。ケーブルテレビ事業を営む関係上、多数のお客様の個人情報を取り扱うため、その管理体制については特に気を配っています。既にケーブルテレビ事業に関連した2つの認定個人情報保護団体^{*1}に事業者登録をしていますが、さらにISMS・プライバシーマーク(Pマーク)の取得の検討を行っています。

その中で、継続した個人情報の管理体制を推進するためには、そのシステム化が不可欠であると考えようになりました。仮にPマークを取得できたとしても、運用上の負担が大きすぎれば必要十分な対策とは言えません。そこで個人情報を管理できるツールを探そうとしたのです。

*1 財団法人放送セキュリティセンター 個人情報保護センター、および財団法人日本データ通信協会内 電気通信個人情報保護推進センターの2団体。

「MaLion」以外に導入を検討されたツールはありましたか。

“様々なPC操作のログ収集に対応している”など、あらかじめ必須と考えていた機能に対応しているかどうかを選定基準としてツールの検討を行いました。「MaLion」を含む4種類のツールを比較・検討しましたが、個人情報の管理機能として最も当財団の要求を満たしていた「MaLion」と「P-Pointer」の両ツールを一緒に導入することにしました。

情報漏洩対策ツール 主要機能

	ツールA	ツールB	ツールC	ツールD
ネットワーク監視				
インベントリ管理				
リモートコントロール				
Webメール				
ハードウェア台帳				
ソフトウェア台帳				
レポート機能				
アラートメール配布				

「MaLion」と「P-Pointer」の名前が出てきましたが、両ツールをご導入いただいた「決め手」についてもう少しお聞かせください。

「MaLion」と、社内の個人情報を一齐に検出できる「P-Pointer」を最終的に選んだ理由として、大きく次の3点が挙げられます。個人情報検出・管理システムの「MaLion」と「P-Pointer」は代用品が存在しないため、個人情報の管理に重きを置いていた当財団にとって、導入に際し迷いはありませんでした。



個人情報検出・管理システムの「MaLion」と「P-Pointer」導入の決め手

- 個人情報ファイルの検出・管理・制御機能に対応していた点。**

「MaLion」と「P-Pointer」は個人情報検出・管理システムとして連携しており、両ツールを導入することで個人情報を含んだファイルの一齐検出から、台帳での一元管理、検出ファイルに対する操作制御までを実現できる。個人情報管理のシステム化を検討していた当財団にとってまさにピッタリのツールだった。
- PC操作のログ収集機能や制御機能が充実していた点。**

「MaLion」は標準機能で各種PC操作ログの収集に対応しており、情報漏洩対策の総合ツールとして適当だと感じた。また個人情報の漏洩につなかりかねない“USBメモリへの書き込み”“プリントスクリーンキーの使用”など、特定の操作についても「MaLion」は標準機能で対応していた。
- 導入時やバージョンアップ時のコストメリットが高かった点。**

総合的なPC操作監視ツールとして価格を比較した際、「MaLion」が最も値ごろ感があった。また今後のバージョンアップ費用についても、他のツールでは別途費用が発生するのに対して、「MaLion」では保守サービスに加入していれば無料でアップデートできるなど今後を見据えてもコストメリットが高いと感じた。

導入の状況

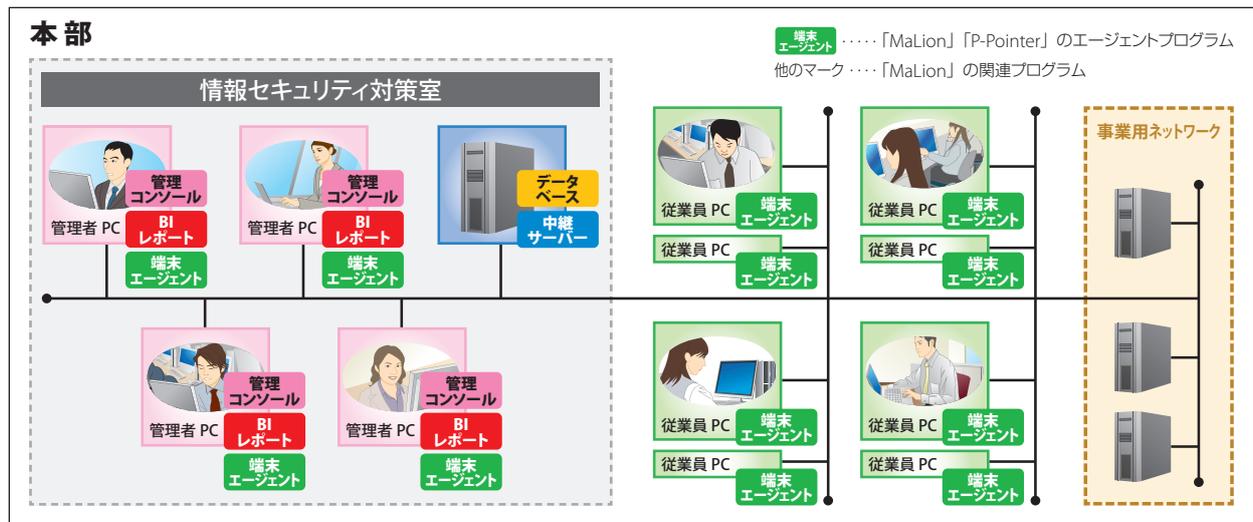
所内の各クライアント端末に導入。管理者 4 名体制で運用

「MaLion」と「P-Pointer」の導入状況について教えてください。

各端末への導入作業を終え、2013年2月より本稼働をスタートさせました。現在、「MaLion」と「P-Pointer」の運用は情報セキュリティ対策室のスタッフ(4名)で行っています。

【財団法人東京ケーブルビジョン様 - 個人情報検出・管理システム(「MaLion」と「P-Pointer」) システム概要図】

本部のネットワークは、大きく所内のネットワークとお客様向けのインターネット接続サービスなどで活用している事業用のネットワークがあり、「MaLion」と「P-Pointer」は所内ネットワークの端末監視に活用している。
 “データベース”と“中継サーバー”は1台のサーバーで運用。各 Windows 端末に「MaLion」と「P-Pointer」のエージェントプログラムを導入し、個人情報を始めとする内部情報の漏洩対策を行っている。



運用と効果

個人情報の棚卸作業効率が飛躍的に向上。操作制御により漏洩リスクが軽減

「MaLion」と「P-Pointer」を活用した情報漏洩対策のご状況とその効果についてお聞かせください。

まず個人情報の管理については、「P-Pointer」による個人情報ファイルの一斉検出機能と、「MaLion」の個人情報管理台帳による検出ファイルの一元管理機能を主に使用しています。

個人情報の棚卸作業は、これまで2年に1回程度の頻度で行って来ました。人手による棚卸作業は非常に骨が折れましたが、両ツールを活用することで、作業時間の飛躍的な短縮につながると考えています。また2年に1回という実行頻度についても、より定期的に行う方向で見直すことができそうです。

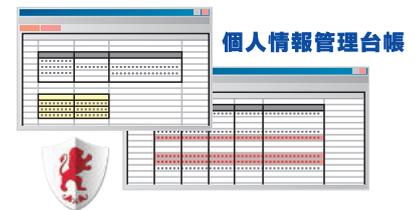
PCの操作制御については、“USBメモリへの書き込み”“プリントスクリーンキーの使用”“Winnyなど危険なアプリケーションの起動”といった操作のみ適用しています。これにより情報漏洩リスクが軽減されると考えています。

さらに個人情報を含んだファイルなど一部のファイルへの操作に対して、警告メッセージをクライアント端末に表示させています。これにより中・長期的には、セキュリティに対する各スタッフの意識向上につながることを期待しています。

なおセキュリティポリシーに対する違反については、1日1回PC操作ログをチェックして管理者宛にメール通知するようにしています。多忙などの理由から例えば管理者が定期的に管理コンソールを確認できなかったとしても、最低1日1回は運用状況をメールベースで確認できるようにしています。

最後に、情報漏洩対策に関する今後の活用方針についてお聞かせください。

今回「MaLion」と「P-Pointer」の連携ツールを導入したことで、個人情報ファイルの管理体制が向上しました。ですが、個人情報ファイルの管理は当財団の業務上、重要なポイントの1つと考えています。そのため個人情報ファイルに対するより柔軟に管理体制を目指し、今後もさらなる向上を図って参ります。



※P-Pointerは、KLab株式会社の登録商標です。



User Profile

会 社 名：株式会社タイセイ・ハウジー
 所 在 地：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-32-10 南新宿 SK ビル
 設 立：1985 年 4 月 5 日
 資 本 金：3 億 2,000 万円
 代 表 者：代表取締役社長 赤間 敏雄
 主な事業内容：不動産の賃貸の仲介、不動産の管理、社宅管理業務代行、不動産の売買及びその仲介など。
 MaLion ご導入台数：1000 台



「インベントリ収集から各種台帳まで、充実したIT資産管理機能が適正な価格でご提供されている点が導入の決め手でした。」

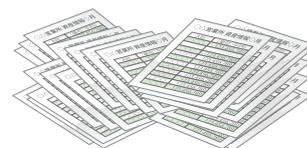
企業の社宅管理業務の代行、マンションオーナーの賃貸物件管理業務の代行、投資向けワンルームマンションの一棟売りなど総合的な不動産ビジネスを展開されている株式会社タイセイ・ハウジー様。特に社宅管理業務の分野では業界 No.1 の受託数を誇っています。「MaLion」をご導入いただいて約 6 か月が経過しましたが、「MaLion」をご導入いただいた経緯や決め手などについて、情報システム部の鬼塚様、平野様、中村様、そして実運用を手掛けられている日本情報産業株式会社の渡邊様に伺いました（2013 年 3 月取材）。

導入の経緯

作業負担となっていた人手による IT 資産の棚卸作業をシステム化したかった

まずは IT 資産管理ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

当社では、これまで特定のツールを利用することなく社内の IT 資産管理を行っていました。毎月実施する棚卸作業では、まず本社のデータベースで管理している社内の IT 資産情報を拠点別に出力します。次に本社を除く計 41 の各拠点に対して出力した IT 資産情報をそれぞれ FAX します。内容確認後、本社まで返送してもらうことで棚卸を実施していました。このように棚卸作業は、各拠点の担当者や情報システム部にとって骨が折れる作業となっていました。



またクライアント PC 向けの情報漏洩対策や社内向けのヘルプデスクに活用するリモートコントロール操作にそれぞれ異なる専用ツールを使用していましたが、IT 資産管理に加えて、これらの異なるツールによる管理を一元化することも想定してツールの導入を検討することになりました。

「MaLion」以外に導入を検討されたツールはありましたか。

「MaLion」を含め計 5 種類のツールを検討しました。導入する上で「インベントリ収集や台帳といった IT 資産管理機能が充実していること」、「印刷操作など各種 PC 操作ログを収集できること」、「リモートコントロール機能に対応していること」などをポイントとして考えていました。

加えて、従業員の PC に対するヘルプデスク業務は Sler の日本情報産業様に外部委託していますが、今回導入するツールについても、自社内でサーバーを運用するのではなく、日本情報産業様にサーバーの管理からシステムの運用まで原則的にお願いするつもりでいました。そのため、日本情報産業様のデータセンターにサーバーを設置して運用できることも検討事項の 1 つとして考えていました。検討の末、主要なポイントについての対応度や機能面とコスト面の総合的なバランス、優れた操作性などが決め手となり「MaLion」を導入することにしたのです。



「MaLion」をご導入いただいた「決め手」について、もう少し詳しくお聞かせいただけますか。

最終的に「MaLion」を選んだ理由としては大きく次の 3 点が挙げられます。標準機能が充実している「MaLion」はトータルコストが明快でわかりやすく好感が持てました。

「MaLion」導入の決め手



トータルコストが適正であった点。

各種操作監視や IT 資産管理に対応した総合的な PC 運用管理ツールとして価格を比較した場合、オプション機能の積み重ねでトータルコストが膨大になってしまった他のツールと比べ、「MaLion」は値ごろ感があった。



直感的に操作できるわかりやすい管理コンソールであった点。

「MaLion」を含む各ツールのデモを見た後に情報システム部内でツールに関するアンケートを実施したところ、「MaLion」が最も使いやすい操作画面であるという結果だった。オプション機能の多い他のツールでは、機能によって操作画面が切り替わる場合もあったが、「MaLion」では、エクスプローラ風の画面構成でほぼ統一されておりわかりやすいと感じた。



IT 資産管理を行う上で台帳機能が充実していた点。

当社の機能要件は各ツールとも概ね満たしていたが、特に「MaLion」は、「ライセンス関連部材台帳」など IT 資産管理を実践する上で有効な台帳機能が揃っていた。

導入の状況

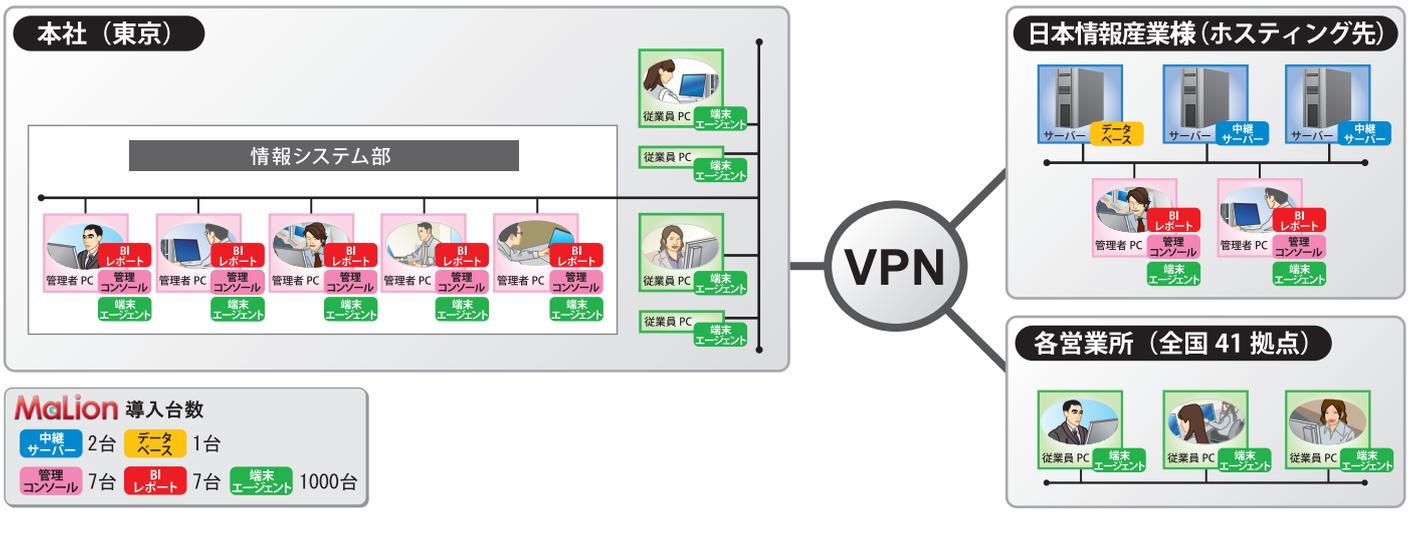
社内のヘルプデスクサービス同様、運用管理を外部に委託

☐ 「MaLion」の導入状況について教えてください。

本社（東京）と全国の各営業拠点の端末を「MaLion」で一括管理しています。現在のところ約 1,000 台の Windows 端末に「MaLion」を導入しています。

【株式会社タイセイ・ハウジー様 - 「MaLion」システム概要図】

「データベース」、「中継サーバー」ともホスティング先である日本情報産業様のデータセンターに設置。システムの管理自体も日本情報産業様が原則的に行っている。運用報告として毎月各 PC の操作ログレポートを日本情報産業様から受けている。



運用と効果

棚卸作業の負担を従来の半分程度に削減。複数のツールの一元化で管理コストも低減

☐ 「MaLion」を活用した IT 資産管理のご状況はいかがでしょう。

ハードウェアおよびソフトウェア情報の自動収集からライセンス管理まで、「MaLion」上ですべて行っています。これまで、IT 資産情報の収集は各拠点の担当者からの自己申告により行っていました。この場合、単純な申告間違いなども想定され正確性の面で課題がありました。「MaLion」を利用することで IT 資産情報の収集が自動化でき、正確性の確保と作業負担の低減につながりました。毎月の棚卸については、従来の半分程度まで作業負担を削減できたと感じています。

また、これまで利用ライセンスの管理は拠点単位で行っており、各拠点の「誰が」利用しているのかまで管理していませんでした。「MaLion」導入後は、ユーザー単位でのきめ細かい管理を実現しています。加えて、一部のソフトウェアについては、当社で保有しているライセンスと実際にそのソフトを利用しているユーザー端末の突き合わせを「MaLion」上でを行い、誰がライセンス違反をしているのかユーザー単位で管理できるようにしています。実際、ほとんど利用されていないライセンスを確認できたり、余っているライセンスを他の拠点へ適用できたりとライセンスコストの無駄の削減につながっています。



☐ では「MaLion」を活用した情報漏洩対策についてはいかがでしょう。

情報漏洩対策については、まず外部デバイスの接続について制限をかけ、内部情報の持ち出しを防いでいます。例えば現場で撮影した物件の写真を社内の PC に取り込む場合には、情報システム部に申請してもらい、一時的に該当の PC の制限を解除して接続を許可するようにしています。

その他、Web アクセスや印刷など各種クライアント操作ログの収集を行っています。不動産ビジネスでは、契約書など紙に印刷したものをお客様先へお持ちする機会が多く、特に印刷操作については高い監視意識を持っています。「MaLion」では印刷イメージのログ収集を行うことはできませんが、別のツールでこの点をカバーし、高い監視体制で運用を行っています。

もともと他のツールで情報漏洩対策を行っていましたが、既存のセキュリティレベルを保ったまま、IT 資産管理やヘルプデスク（=リモートコントロール）のツールを統合できた点は、管理コストの低減という観点からも大きなメリットだと思います。

☐ 最後に、「MaLion」に関する今後の活用方針についてお聞かせください。

不正なソフトウェアの利用を「MaLion」を使って自動的に止められるよう、セキュリティポリシーのさらなる改善を行う予定です。社内のセキュリティ規程を踏まえ、業務に関係のないソフトウェアを一つ一つ洗い出し、「MaLion」のセキュリティポリシーに反映していきます。

●開発・販売

株式会社 **インターコム**

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL : 03-3839-6769
 中部営業所 〒456-0018 名古屋市熱田区新尾頭 1-6-9 TEL : 052-678-3901
 西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL : 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：ジェイリース株式会社
 所在地：(大分本社)〒870-0034 大分県大分市都町 3-7-23 (東京本社)〒163-1108 東京都新宿区西新宿 6丁目 22-1 新宿スクエアタワー 8階
 設立：2004年3月
 資本金：2億円
 代表者：代表取締役社長 中島 拓
 主な事業内容：賃貸不動産における家賃債務保証業
 MaLion 導入台数：233台

ジェイリース株式会社

ホームページ <http://www.j-lease.jp>

USBメモリの利用制御をはじめ、セキュリティリスクの高い操作を徹底管理 「お客様の信用を守るために、 情報漏洩対策ツールの導入は必須事項でした。」

全国に14の支店を構え、賃貸住宅の契約時に必要な賃借人の連帯保証人を代行するサービスを展開されているジェイリース株式会社様。家賃保証会社は何を差し置いても「信用」が第一であるとして、決算内容などの公開による経営の透明性確保、あるいは従業員に対するコンプライアンスの徹底などを積極的に実行されております。

「MaLion」をご導入いただいて約1か月が経過しましたが、「MaLion」をご導入いただいた経緯や決め手などについて、システム部の中野様に伺いました(2012年7月取材)。

導入の経緯

従業員の急増に伴い、“何か事件が発生してからでは手遅れ”という危機感があった

まずは情報漏洩対策ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

私たちが担う家賃債務保証業は、とにかくお客様の情報を守らなければ成り立たないビジネスです。そのため、情報セキュリティに対する社内教育は以前から積極的に実施していました。

しかしながら近年の業務拡大に伴って全国に店舗を拡張、従業員数も急増しました。従業員数の増加は、少なからずセキュリティリスクの拡大にもつながります。

おかげさまで、当社ではこれまでに情報漏洩事件が発生したケースはありませんが、何か事件が発生してからでは手遅れとなります。そこで、万が一に備えて社内の情報セキュリティをシステムとして担保すべくツールの導入を検討することになりました。

「MaLion」以外に導入を検討されたツールはありましたか。

導入候補として、「MaLion」ともう1つのツールの2種類に絞って検討しました。結果、費用面の違いなどから「MaLion」を導入することにしました。最終的に「MaLion」を選んだ理由は大きく次の4点です。



ニータンと写る社員の皆様

「MaLion」導入の決め手

トータルパッケージとして各種監視機能が揃っており、シンプルでわかりやすかった点

各機能がオールインワンで提供されている「MaLion」は、オプション選択などで迷う心配がなく、これ一つだけ買ってあげれば大丈夫だという安心感があった。

トータルコストが適正であった点

各種操作監視に対応した総合的な情報漏洩対策ツールとして費用を比較した場合、オプション対応が多い他のツールと比べて「MaLion」は値ごろ感があった。

直感的に操作できる使いやすい管理コンソールであった点

事前に評価版で「MaLion」を試用した際に、管理コンソールの操作性が優れていると感じた。操作マニュアルを熟読しなくても、実際に触りながらおおよその機能を理解することができた。

インターコム商品の保守サービスに対して信頼度が高かった点

以前より社内の基幹システムにおいて「まいと〜く FAX 9 Pro」を利用しているが、ソフトの安定性に加え、問い合わせに対する迅速かつ丁寧な対応などインターコムの充実した保守サービスに高い信頼を寄せている。そのため「MaLion」についても、同様に保守サービスへの信頼度が高かった。

導入の状況

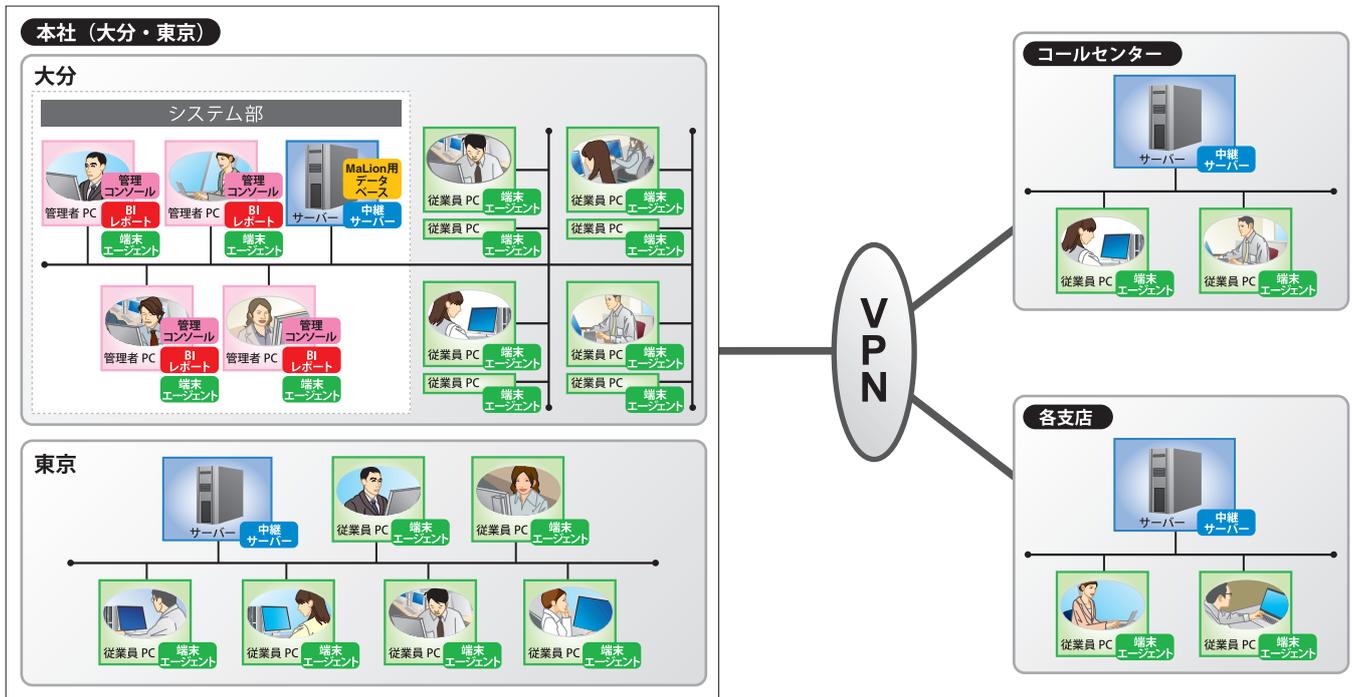
候補ツールを選定後、比較的短期間で全社導入まで実現

「MaLion」の導入状況について教えてください。

本社(大分・東京)と各拠点でVPNで接続した社内ネットワークに2012年6月に新規導入しました。現在のところ合計233台のWindows端末を「MaLion」で一括管理しています。

【ジェイリース株式会社様 -「MaLion」システム概要図】

「データベース」は大分本社に設置。大分本社のシステム部門で全体の運用管理を行っている。現状、各管理者の操作権限に差異はないが、将来的には内部監査室に権限を移管し、管理者に対する操作権限の設定などシステム部門に対しても管理を行っていく予定だ。
 ちなみに導入候補ツールを選定後、本稼働までにかかった期間は約 2 か月間だった。最初の約 1 か月間は評価版の試用により「MaLion」の導入を決定。後の約 1 か月間で、各拠点に向けた導入・セッティング作業を進め本稼働に至った。



運用と効果

情報漏洩リスクとして捉えていた、USB メモリによる内部情報の持ち出し制御を実現

☐ 「MaLion」を活用した情報漏洩対策のご状況はいかがでしょう。

原則、ログを収集することで各種操作の監視を行っていますが、「USB メモリ」と「アプリケーションソフト」の利用については、制限を含めより堅固な管理を行っています。

まず USB メモリの利用については、各支店に対して 1 本ずつ支給した USB メモリのみ利用を許可しています。デバイスインスタンス ID（個体識別用の ID）をもとにした「MaLion」の USB メモリ制御機能により、柔軟な管理ができています。

またアプリケーションソフトの利用については、ピアツーピアのファイル共有ソフトやゲームソフトといった業務上必要としないものについては利用を制限しています。仮に制限対象となっているソフトを利用した場合、利用の制限と併せて該当の従業員 PC に警告メッセージを表示するようにしています。このような警告の仕組みがあることで、業務外の行為に対する不正意識の向上につながるものと思います。

☐ その他、「MaLion」の導入効果についてお気づきの点があればお聞かせください。

収集したログを確認することで、個々の従業員の業務管理に役立てることができます。例えば、夜遅くまで稼働している PC やアプリケーションが収集ログからわかることで、個々の従業員や部門別の業務負担量を把握し、改善へとつなげることができます。このように、情報セキュリティ以外の面でも様々な効果が期待できます。

☐ 最後に、「MaLion」に関する今後の活用方針についてお聞かせください。

まず情報漏洩対策の面では、「Web アクセス」と「送信メール」の制御について強化していきたいと考えています。

現状は、USB メモリを利用した顧客情報などの不正な持ち出しを第一に懸念して、USB メモリの制御機能のみ有効活用しています。Web アクセスと送信メールについては、USB メモリに続く情報漏洩リスクとして捉えていますので、同様に制御機能を有効活用することで対応していきたいと思えます。

また IT 資産管理については、現状、システム部で社内の IT 資産を手動でまとめる形で一元管理を行っています。「MaLion」には、インベントリの自動収集からソフトウェアのライセンス管理まで便利な機能がありますので、今後は「MaLion」を使った資産管理に切り替えていきます。



●開発・販売

株式会社 **インターコム**

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL : 03-3839-6769
 中部営業所 〒456-0018 名古屋市中区南新栄 1-6-9 TEL : 052-678-3901
 西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL : 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名: ビー・シー・イー株式会社
所在地: 〒102-8171 東京都千代田区富士見 1-2-21 PCA ビル
設立: 1980年8月1日
資本金: 8億9,040万円(株式東証二部上場)
代表者: 代表取締役社長 水谷 学
従業員数: 305名(2012年3月末現在)
主な事業内容: コンピューターソフトの開発および販売

ホームページ <http://pca.jp/>

会計ソフトはPCA



ツール選定から本稼働まで、スピード導入を実現。

「必要とする機能が揃っているか、価格が適正であるか、 そして使いやすいかが比較検討のすべてでした。」

ERPソフト「PCA Dream21」や会計ソフト「PCA 会計 X」など、基幹業務ソフトウェアの開発・販売を手掛けられているビー・シー・イー株式会社様。近年では業界に先駆けて、基幹業務のクラウドサービス「PCA for SaaS」を展開されたりしています。

「MaLion」をご導入いただいた経緯や決め手などについて、情報システム部の山口様および竹中様に伺いました(2012年7月取材)。

導入の経緯

内部統制の一環として、社内ネットワークに対する不正接続対策の導入などが必要だった

まずは情報漏洩対策ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

「企業の内部統制強化」は、特に上場企業にとって最重要課題となります。当社においてもそれは例外ではありません。万が一の有事に備えて、各種操作ログを収集・管理できる仕組みを導入することについて以前より検討していました。

さらに近年、事業スペースの拡大に伴って会議室や応接室といったオープンスペースが増大しました。取引先を始め、オープンスペースを利用した社内外間のコミュニケーション機会が増える中、社内利用を認めていないPCで不正に社内ネットワークへ接続されるというリスクに対して特に懸念するようになりました。

このように「各種操作の統合ログ管理」および「社内ネットワークへの不正接続対策」を主な目的として新しいツールを探すことにしました。

「MaLion」以外に導入を検討されたツールはありましたか。

「MaLion」を含め計4種類のツールを検討しましたが、結局「MaLion」以外のツールは機能・費用の面で折り合わず断念しました。そもそも当社では今回のツール導入に際して、できるだけ短期間での導入を予定していました。そのため、「必要な機能がすべて揃っているか」、「価格が適正であるか」など、最も基本的な部分でツールの比較検討を行いました。

PC操作ログの収集については、様々な操作に対応していることが重要であると考えていましたので、総合的な操作監視ツールを探しました。その際、「MaLion」以外のツールはオプション機能が何点か含まれ、トータルコストが膨大なものになりました。「MaLion」は標準機能が充実している上に価格も適正であるため、迷うことなく導入に踏み切りました。

「MaLion」をご選定いただいた「決め手」についてもう少しお聞かせください。

最終的に「MaLion」を選んだ理由としては大きく次の3点です。その他、当社とインターコムさんは同じソフトウェアメーカーとして付き合いも長く、そのようなこれまでの信頼関係も含めて「MaLion」の導入を決めました。



情報システム部 主任 竹中 康裕 様



ビー・シー・イー様の
業務ソフトウェア パッケージ

「MaLion」導入の決め手



搭載機能とコスト面のバランスが優れていた点

先ほど挙げたように、「MaLion」は手頃な価格帯でありながら、「社内ネットワークへの接続監視」や「USBメモリの接続監視」など、当社が必要としていた操作監視機能にすべて標準で対応していた。



管理コンソールが洗練されており操作性に優れていた点

「MaLion」の管理者画面は、「メニュー構成がわかりやすくまとまっている」、「端末操作制限を右クリックメニューから手軽に適用できる」など使いやすさの面で配慮されていた。先ほど挙げたように標準機能が充実しているため、初めから数多くの機能の利用を前提として操作画面の設計がなされていると感じた。



管理者に対するログ収集に対応していた点

当初、必須機能として考えていなかったものの、「MaLion」を運用するシステム管理者の透明性を確保する上で、管理者の操作ログを収集できる「MaLion」の機能は有効であると感じた。

導入の状況

ネットワーク監視機能の全社稼働を最優先としスピード導入

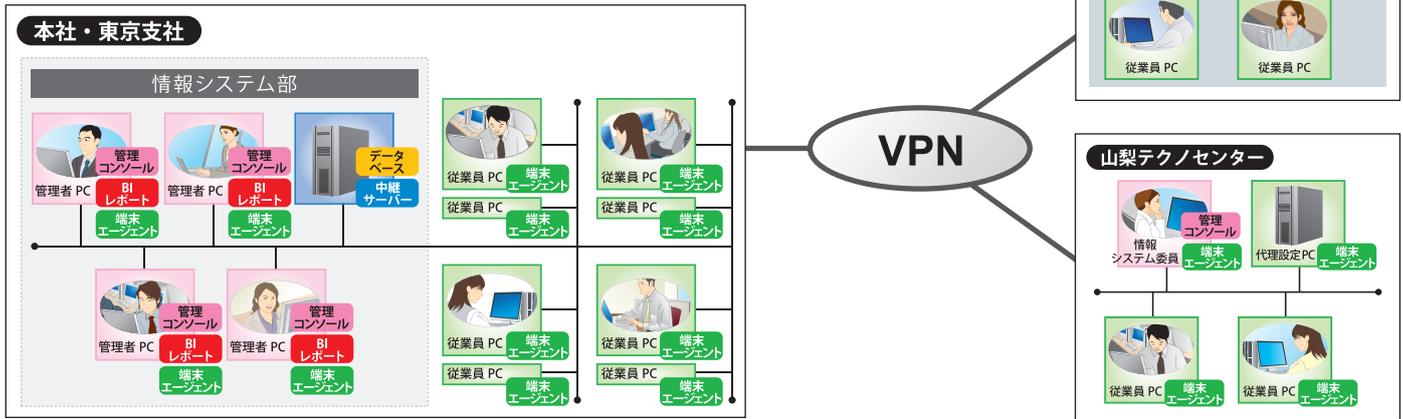
「MaLion」の導入状況について教えてください。

当社のネットワークは、本社と各支店・営業所をVPNで接続し、社内の各Windows端末に対して「MaLion」を導入しています。

【ピー・シー・エー株式会社様 - 「MaLion」システム概要図】

「データベース」、「中継サーバー」ともに東京本社に1台設置。本社の情報システム部門で全体の運用管理を行っている。各情報システム委員（各拠点の情報システム担当者）については、希望者のみに「管理コンソール」を配布して、ログの閲覧を許可している。

各拠点には「中継サーバー」を設置しない代わりに、特定の「端末エージェント」にネットワーク監視機能の代理設定を行って運用している。また本社および山梨テクノセンターを除く各拠点については、現状、各PCに「端末エージェント」を導入せずにネットワーク監視機能のみ有効としている。なお将来的には全PCに「端末エージェント」を導入する予定だ。



運用と効果

「MaLion」と社内システムを連携させ、ネットワーク監視の強化と資産登録の推進を実現

「MaLion」を活用した情報漏洩対策のご状況はいかがでしょう。

まだ導入して間もないですが、最優先事項としていた「社内ネットワークへの不正接続対策」については予定通り実現できていると考えています。当社では、「MaLion」のネットワーク監視機能によって発信される警告メールを利用して、社内の「資産登録申請・管理システム」や「社内ポータルサイト」と「MaLion」を連携させる仕組みを開発しました。これにより、社内のハードウェア資産として登録されていないPCが社内ネットワークに接続した場合に自動で遮断される上、遮断中の機器が社内ポータルサイトに即揭示され、仮に資産登録のし忘れであった場合、該当者に対して即座に気づきを与えることが可能となっています。

従業員の立場で見ると、資産登録をしていないPCでは社内ネットワークに接続できないため、資産登録に対する意識を高める効果が働いていると思います。併せて「監視されている」という意識も同時に生まれ、セキュリティ意識の向上にもつながっていると思います。

ネットワーク監視機能以外のご利用状況や導入効果についてはいかがでしょう。

ネットワーク監視機能以外は、原則操作ログの収集のみで運用しています。「MaLion」による各種操作の監視について社内に表示することで、抑止効果につながっていると思います。

情報漏洩対策以外の機能では、リモートコントロール機能が便利だと思えます。例えばWindowsのリモートデスクトップの場合、他者から新しい接続がなされた際に既に確立していた自身の接続は自動的に解除されてしまいます。これは、リモートコントロールで重大なメンテナンス作業を行っている場合には致命的となります。この点、「MaLion」のリモートコントロール機能にはそのような心配がなく安心して利用することができます。



その他、「MaLion」に関する今後の活用方針についてお聞かせください。

USBメモリの利用に関する管理をさらに強化したいと考えています。現状、会社で用意したUSBメモリのみ利用を許可しています。従業員に貸し出す際に管理番号を記録してから貸し出すことで、所在を明確にしています。今後は、デバイスインスタンスIDをもとにした「MaLion」のUSBメモリ制御機能を利用して、会社で支給したUSBメモリのみ利用できるシステム環境を早々に実現したいと考えています。

●開発・販売

株式会社 インターコム

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL: 03-3839-6769

中部営業所 〒456-0018 名古屋市中区新栄 1-6-9 TEL: 052-678-3901

西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL: 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：イトウ製菓株式会社
所在地：〒114-0014 東京都北区田端 6-1-1 田端 ASUKA タワー 8F
設立：1952 年 8 月 12 日
資本金：3 億 6,075 万円
「MaLion」ご導入台数：152 台

ホームページ <http://www.mr-ito.jp/>



“使いやすい”、“機能が充実”、“価格が安い”の三拍子が決め手となりました。

ログ収集を中心とした運用で、社員の情報セキュリティ意識を向上!

創業以来約 60 年にわたり、クッキー・ビスケットの専門メーカーとして歩まれ続けてきたイトウ製菓株式会社様。バタークッキー、バターサブレなどの「ミスターイトウ」ブランドを始め、永きにわたって愛され続ける商品を製造・販売されています。

「MaLion」をご導入いただいて数か月が経過しましたが、当時ご導入いただいた際の経緯や現在どのようにご活用いただいているのかなどを、IT 推進課の田中様に伺いました (2011 年 10 月取材)。

導入の経緯

社内 IT インフラの整備に伴い、情報漏洩対策のシステム化が必要だった

まずは情報漏洩対策ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

私が入社した当時、本社と各拠点はそれぞれ個別に LAN を構築していました。また社内パソコンは、1 人につき 1 台ではなく複数の社員で 1 台を共用するなど社内の IT インフラは必ずしも十分な状態とは言えませんでした。

そこで、2007 年より少しずつ IT インフラの整備を進めていきました。現在では本社と各拠点を VPN で結び、社内パソコンは 1 人につきほぼ 1 台以上が行き渡る環境となっています。IT インフラが整うことによって利便性は格段に向上しましたが、同時に情報セキュリティリスクも高まりました。そこで情報漏洩対策ツールの導入を検討することにしたのです。



経営企画室 IT 推進課 田中 康広 様

その“情報セキュリティリスク”とは具体的にどのようなものでしたか。もう少しお聞かせください。

一言で言えば、“情報セキュリティに対する各社員の意識の低さ”ということになります。IT インフラが十分に整っていなかった当時は、例えば“Web を経由した情報セキュリティリスク”や“私用 PC を社内を持ち込むことによる情報セキュリティリスク”は限定的でしたし、セキュリティに対する各社員の意識も今ほど求めていませんでした。

その一方で IT インフラが整ってくると、社内情報に対するアクセス・活用の利便性が向上した反面、情報セキュリティリスクに対する会社としての懸念が増すこととなりました。IT インフラが整備されたからと言って社員のセキュリティ意識が急に向上するわけではありませんので、そのあたりの整合性をとるために情報漏洩対策ツールは必要だと考えたのです。

「MaLion」以外に導入を検討されたツールはありましたか。

実は当初、「MaLion」の競合となる 3 種類のツールの中から導入を検討していました。それぞれ機能面では充実した印象がありましたが、費用を当たったところどれも高額で当社の予算を大幅に上回るものでした。

そんな折、懇意な取引関係にある Sler に相談したところ「MaLion」をご紹介いただきました。既に検討していた 3 種類のツールと同様に機能面が充実、さらに価格面でリーズナブルな印象を持ち、早々に試用を開始しました。上司の評価も良かったので、そのまま「MaLion」を正式に導入することにしました。



膨大な導入コスト

低価格が導入の“決め手”になったようですが、その点を含め、導入の決め手となったポイントをもう少しお聞かせください。

最終的に「MaLion」を選んだ理由としては、大きく次の 3 点が挙げられます。“使いやすい”、“機能が充実”、“価格が安い”と三拍子揃った「MaLion」は、当社のように初めて情報漏洩対策ツールを導入する企業にとって有効なツールだと思いました。

「MaLion」導入の決め手



標準機能が充実しており、コストパフォーマンスに優れている点

「MaLion」には、当社が必要としていた機能がすべて網羅されている上にとにかく低価格であった。同等の機能を持つ他のツールでは、トータルコストが「MaLion」の数倍となり、当社にとっては現実的でなかった。特に“USB メモリの監視”や“リモートコントロール”など、他のツールではオプション扱いとなっていた機能が「MaLion」では標準搭載されており、コストメリットを感じた。



リモートコントロール機能に対応していた点

先ほども触れたが、“リモートコントロール”が標準搭載されていた点はポイントが高かった。メールソフトの不具合や Excel の使い方など、社員 PC のちよとしたトラブル対応に追われる時間を大幅に短縮できるリモートコントロール機能は、システム管理者にとって必須の機能だった。



管理コンソールが使いやすく、入門ツールとして適していた点

直感的に操作できるわかりやすいインターフェースもポイントが高かった。さらに標準機能が充実しているため、今すぐ利用しない機能があったとしても将来的に利用できるという安心感があった。特にセキュリティの専任担当者が不在の当社にとって、「MaLion」は入門ツールとして適していた。

導入の状況

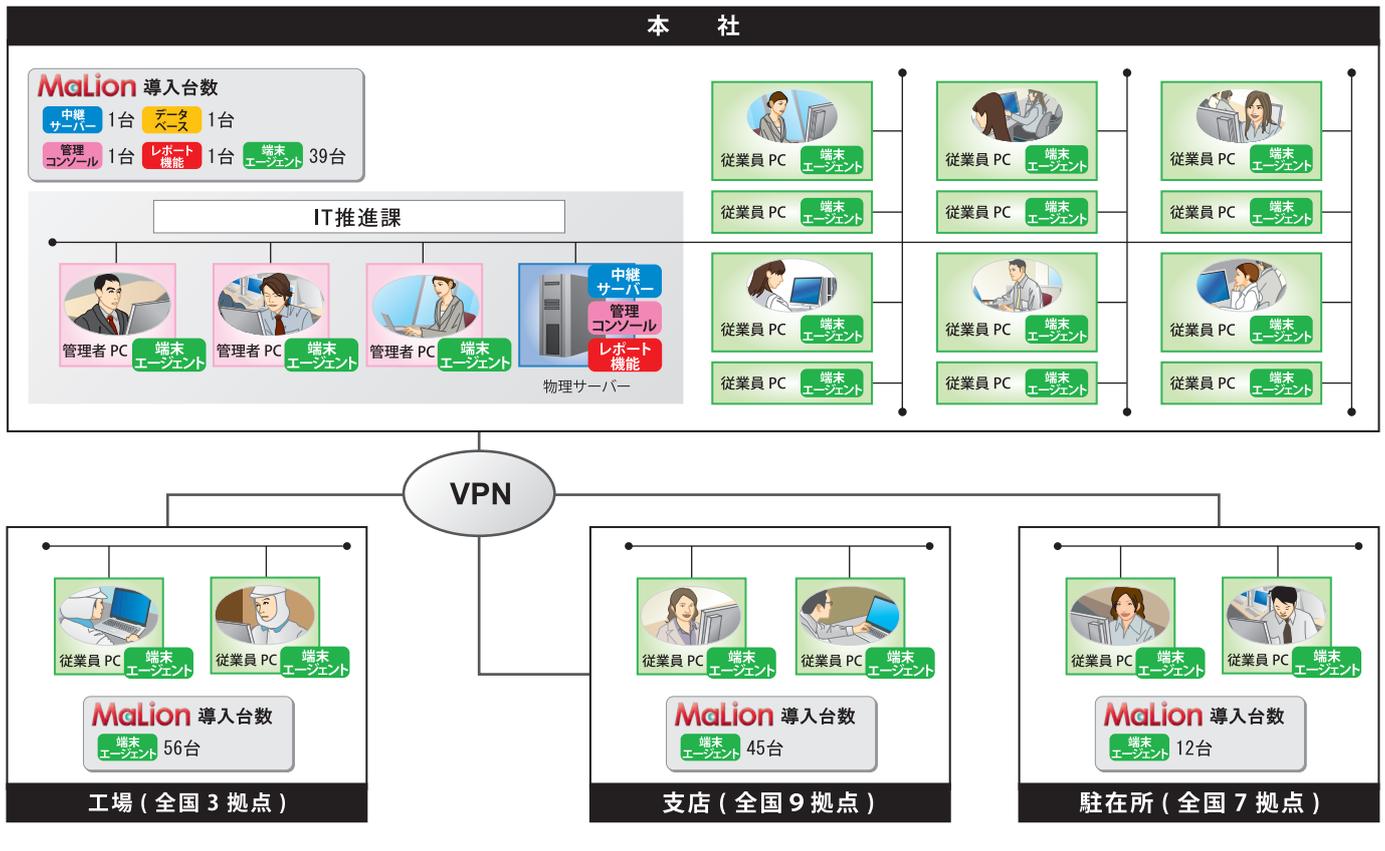
徐々に全社導入へと拡大し、2011年9月より本格稼働。管理者3名体制で運用

☐ 「MaLion」の導入状況について教えてください。

当社のネットワークは、東京本社と全国19の拠点（工場、支店、駐在所）をVPNで接続し、合計152台のWindows端末に対して「MaLion」を導入しています。現状、管理者3名体制で「MaLion」の運用を行っています。

【イトウ製菓株式会社様 - 「MaLion」システム概要図】

「データベース」、「中継サーバー」ともに東京本社に設置。各拠点（工場、支店、駐在所）の中継サーバーについては、それぞれ1台のPC（端末エージェント）に対して代理設定を行うことで代用している。2011年3月に「MaLion 3」を試験導入。徐々に導入端末を拡大し、2011年9月頃より全社導入による運用を開始した。



運用と効果

ログ収集を中心とした運用により、不正行為に対する抑止効果が作用

☐ 現在「MaLion」を利用して、どのような情報漏洩対策を行っておりますでしょうか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

全社員の情報セキュリティに対する意識を高めるべく、主に各種操作ログの収集のみで「MaLion」の運用を行っています。現時点では厳しい操作制限を強いていませんが、「MaLion」で監視を行っていることをあらかじめ社内に開示していますので、特に不正な操作が行われたというログは見当たりません。“不正行為に対する抑止効果”が働いているのではないのでしょうか。

ちなみに Web アクセス監視機能についてのみ、ログ収集と併せてギャンブル系サイトなど一部のサイトアクセスに対する制限と、SNS系サイトなど一部のサイトアクセスに対する警告表示も行っていきます。

☐ その他、「MaLion」に関する今後の活用方針についてお聞かせください。

「MaLion」のファイル監視機能を使って、社内文章の監視・管理を強化したいと考えています。まず Word や Excel などで作成した各種情報ファイルの名前の付け方をルール化します。これにより、例えばファイル名に「社外秘」が含まれるものについては、社員による印刷や移動行為を「MaLion」で制限できるようにします。このように情報資産を直接的に守るための細かい運用も将来的には行っていききたいと思います。



「ミスターイトウ」ブランドの代表商品

●開発・販売

株式会社 **インターコム**

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL : 03-3839-6769

中部営業所 〒456-0018 名古屋市中区新栄 1-6-9 TEL : 052-678-3901

西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL : 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：株式会社ダーツライブ
 所在地：〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー18F
 設立：2003年11月
 資本金：1,000万円
 主な事業内容：ゲーム機器およびゲーム用ソフトウェアの企画、開発、販売
 コンピューターネットワークシステムの管理、運営、保守
 コミュニケーションを軸とした情報提供サービス ほか
 「MaLion」ご導入台数：500台



ホームページ <http://www.dartslive.com/corp/jp/outline/dl/>

**操作面や運用面での“分かりやすさ”が、導入への大きな決め手となりました。
 従業員のモラルを尊重した運用ポリシーにより、無理のないPC運用管理を実現!**

国内のエレクトリックダーツ市場でトップシェアを誇る株式会社ダーツライブ様。ネットワーク通信型のダーツマシンをはじめダーツと共通のICカードが利用できるタッチパネル式ゲームマシンなどを媒体とし、ランキング機能やプレイヤー同士のコミュニティ支援機能など、様々な総合的ネットワークサービスを展開されています。

「MaLion」をご導入いただいて4年近く経過しましたが、当時ご導入いただいた際の経緯や現在どのようにご活用いただいているのかなどを、情報システム課の小島様に伺いました（2011年10月取材、2015年1月更新）。

導入の経緯

Windows OSのリプレースに伴い、新しいIT資産管理ツールの導入が必要だった

まずは情報漏洩対策ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

ソフトウェアのライセンス管理を効率的に行うべく、2008年にインベントリ情報を収集できるツールを導入したのが最初のきっかけです。当社では、IT資産を購入する際に原則として情報システム課を通して行うという社内ルールがあります。保有ライセンスは当課で把握できているため、インベントリ情報の収集をシステム化することで、ライセンス管理の効率化を実現しました。

ただ最初に導入したツールは“思いのほか動作が重い”、“時々システムが不安定になる”など、まったく不満がないわけではありませんでした。さらに2011年に入って、社内PCのOSを64ビット版のWindows 7に入れ替えることを計画したのですが、そのツールでは64ビット版OSへの対応予定がなかったため、これが決定的な要因となって新しいツールを探すことにしたのです。



情報システム課 小島 伊貴様

「MaLion」以外に乗り換えを検討されたツールはありましたか。

まず「MaLion」を含め、Windows 7に対応する計3種類のツールを乗り換え候補として絞り込みました。次にその3種類のツールについて、各社からそれぞれデモを行っていただき検討することにしました。「MaLion」のご説明をいただき、操作性や価格体系などの面で他のツールと比べてとにかく“分かりやすい”という印象を持ちました。

“分かりやすさ”が導入の“決め手”になったようですが、その点を含め、導入の決め手となったポイントをもう少しお聞かせください。

最終的に「MaLion」を選んだ理由としては、大きく次の3点が挙げられます。「MaLion」のようなツールの管理画面は毎日頻繁に操作するものでもないため、毎回迷うことなく使用できるという意味で、操作面や運用面における見た目の分かりやすさは特に重要であると思いました。



クリエイティビティな印象のあるオフィス

「MaLion」導入の決め手

- ログ検索がしやすいなど、管理コンソールが使いやすかった点**

「MaLion」のインターフェースが直感的に操作でき、わかりやすいものだった。特に収集ログをチェックする際に、“Webアクセス”や“デバイス操作”など対象操作別にワンクリックで表示の切り替えが可能であったり、検索窓を使ったキーワード検索が可能であったりと目的のログを効率良く探すことができた。
- 必要な機能が標準機能としてすべて揃っていた点**

「MaLion」は標準機能が充実しており、当社で必要としていた機能がすべて標準で揃っていた。他のソフトウェアの場合、一部の機能がオプションとなっていたため、トータルコストが膨れ上がる傾向にあった。ちなみにオプションの種類が多いと大概価格体系も複雑であり、その点でも「MaLion」はシンプルで分かりやすかった。
- サポートサービスのレスポンスが早く、好印象であった点**

環境面では、以前のツールで未対応となっていたWindows 7（64ビット版）に対応済みだった点に加え、サポート対応の良さも決め手となった。試験的に運用していた当初、何度かサポートサービスを利用する機会があったが、毎回素早く、的確なご対応をいただき好感が持てた。

導入の状況

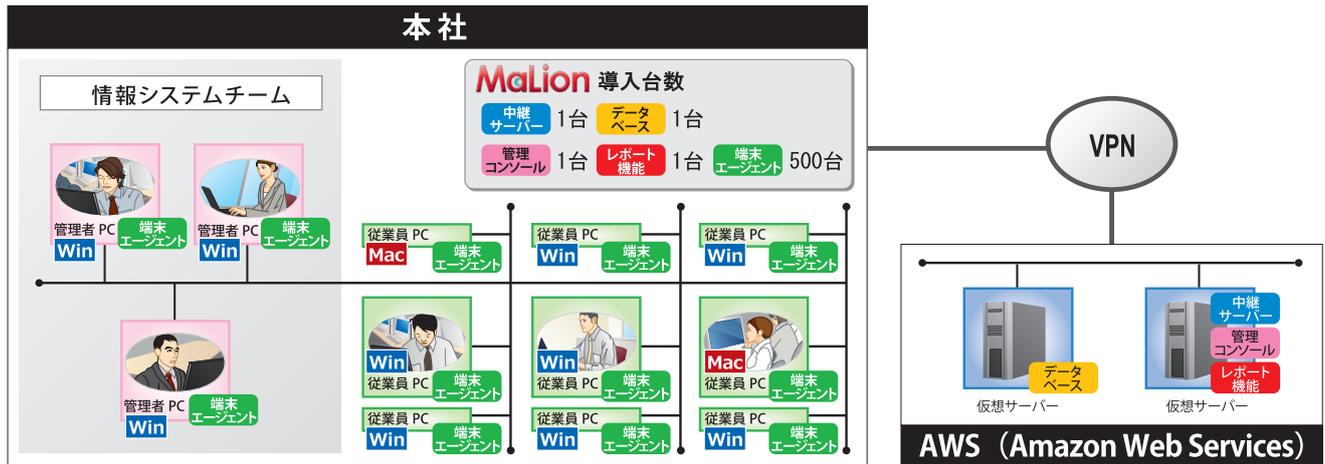
WindowsとMacの両PCを一括管理。管理者2名体制で運用

☑ 「MaLion」の導入状況について教えてください。

当社のネットワークは、東京本社と関西支店をVPNで接続し、合計約500台の端末（Windows端末490台、Mac端末10台）に「MaLion」を導入しています。現状、管理者2名体制で「MaLion」の運用を行っています。

株式会社ダーツライブ様 - 「MaLion」システム概要図

2011年3月に「MaLion」を本社内のサーバールームに新規導入。除々に導入端末を拡大し、2011年7月より全社導入による運用を開始した。その後、2014年9月に「MaLion」のサーバーをアマゾン ウェブ サービス（以下AWS）へ移設し、現在運用している。ログの保存期間は、データベースのディスク空き容量の制限から現状6ヶ月間となっている。2011年11月に、データベースを「SQL Server 2005 Standard」から「SQL Server 2008 Standard」へアップデートを行った。



運用と効果

従業員のモラルを尊重して、ログ収集を中心とした運用を展開

☑ 「MaLion」を活用したIT資産管理のご状況はいかがでしょう。

従来のIT資産管理ツールでは、ソフトウェアインベントリの収集のみを行い、EXCELベースの保有ライセンス台帳と突き合わせてライセンス管理を行っていました。「MaLion」には、インベントリの収集機能に加えてライセンス管理機能があります。あらかじめ保有ライセンス数を登録しておけば、「MaLion」上で突き合わせの作業まで行えますので、この機能は今後活用していきたいと思えます。

☑ それでは、「MaLion」を活用した情報漏洩対策についてはいかがでしょう。

USBメモリについては、事前に申請のあった一部の従業員のみ利用を許可し、その他は原則として制限をかけています。USBメモリは、携帯用の記録デバイスとして非常に手軽な媒体であり、部門によっては、取引先と業務を進める中で自前のUSBメモリを利用するケースがよくあります。そのため「MaLion」導入前は、ActiveDirectoryの機能を使って一部の従業員を除き利用制限をかけていました。「MaLion」導入後も、この運用ルールをそのまま継続しています。

なお「MaLion」では、デバイスインスタンスIDを活用して、従業員単位でなく個々のUSBメモリ単位で利用制限をかけることができますので、きめ細かく管理を行うためにも、今後利用したいと思っています。

その他操作監視機能については、原則ログ収集のみを行っています。操作ログを収集していることを社内に表示することで、一定の抑止効果につながっていると思います。これまで何ら問題となるような不正行為は生じていませんので、今後も従業員のモラルを尊重して、ログ収集を中心とした運用を継続していく予定です。

☑ その他、今後の活用方針についてお聞かせください。

従業員の増加に伴って、トラフィックの急激な増加によるネットワークの遅延、あるいはライセンスの無断利用といった問題が起きないとも限りません。そこで、「MaLion」のレポート機能を活用した定期的なログ分析を行いたいと考えています。

その他、「Google Apps」や「Salesforce」などを利用して、クラウド上に社内システム持つケースが増えています。そのためWebアクセス監視機能についても、今後さらに有用に活用できればと考えています。



落ち着いた雰囲気のあるエントランス

●開発・販売

株式会社 インターコム

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL : 03-3839-6769
 中部営業所 〒456-0018 名古屋市熱田区新尾頭 1-6-9 TEL : 052-678-3901
 西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL : 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>

User Profile

会社名：株式会社ニュー・クイック
所在地：〒251-0047 神奈川県藤沢市辻堂2-7-1 湘南パールビル6F
設立：昭和48年9月28日
資本金：2億1,540万円
「MaLion」ご導入台数：244台

ホームページ <http://www.new-quick.co.jp/>



業務に特化した専用端末と比べ、PCは操作性の自由度が高い反面、セキュリティリスクが伴います。
マリオンの導入により、全国各店舗の業務用PCの情報セキュリティを確保!

精肉小売業を営む株式会社ニュー・クイック様。全国に140の店舗を構え、食肉および食肉加工食品さらには食料品、惣菜などの販売を手掛けられています。「MaLion」をご導入いただいて一年半以上が経過しましたが、当時ご導入いただいた際の経緯や現在どのようにご利用いただいているのかなどを、総務部の金子様および清水様に伺いました(2010年11月取材)。

導入の経緯

基幹システムの入れ替えに伴い、全国140拠点の店舗PCを制御する必要があった

まずは情報漏洩対策ツールの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

業務の拡張に伴って、基幹システムの入れ替えというシステムインフラの大規模な整備を行いました。各店舗では当時、業務上の利用のみに特化した専用端末を採用していましたが、基幹システムの変更に伴って専用端末の入れ替えも必要となりました。そこで端末の入れ替えコストなどを踏まえ、タッチパネル式の小型タブレットPCを採用することにしました。

従来の専用端末では業務外の用途には一切利用できないため情報漏洩リスクを考える必要はありませんでした。一方、タブレットPCの場合は業務外のさまざまな用途に利用できるため、Web経由による情報の漏洩やUSBメモリなどの外部デバイスによる情報の持ち出しなど様々な情報漏洩リスクに対応する必要がありました。これがツールの導入を検討した一番のきっかけです。

その他、本社や物流センターでも過去に業務外のソフトウェアの不正導入が発覚したり、業務中に私用のWebアクセスが発覚したりしたケースがありましたので、全社的な導入を視野に入れて情報漏洩対策ツールを探すことにしました。

「MaLion」以外に導入をご検討されたツールはありましたか。

実は「MaLion」を導入する前に3カ月間ほど他社のツールを導入していました。アプライアンスの商品だったのですが、社内PCが低スペックだったせいか数台がフリーズしてしまったり、収集したログのソート機能が不十分な点があったためログの閲覧がしにくかったりとあまりにも使いにくい点が多く、すぐに運用をあきらめてしまいました。

その後再度新たなツールを探すことにしたのですが、導入費用が著しく高価なものや動作要件として非常にスペックの高い管理サーバーを必要とするものなど、総合的に満足できるツールが意外と少ないことに驚きました。そんな中、「MaLion」は高スペックの管理サーバーを必要としなかったり、標準搭載されている機能数が他社ツールを圧倒していたりと当社のニーズを満たしていたので導入することにしました。

「当社のニーズを満たしていた」という点がご導入の「決め手」になったと思いますが、その点をもう少しお聞かせください。

最終的に「MaLion」を選んだ理由としては、大きく次の3点が挙げられます。「MaLion」については、実際に試用させていただいた上で、当社にとって十分に満足できるツールであることが確認できましたので導入に踏み切りました。



総務部 システム担当課長
金子 頼次様



「MaLion」導入の決め手



PCの各種操作制限機能がすべて揃っている点

各店舗のPCについては、それまで採用していた専用端末のように業務用途の利用のみに限定したかった。その意味で、Webアクセスやファイル操作などPC上の様々な操作を制御できるツールを探していた。当時検討した商品の中で、「MaLion」の豊富な操作監視機能群は他のツールを圧倒していた。例えば送受信メールの監視機能について、一部のサービス/ブラウザのみではあるがWebメールの監視にまで対応していたツールは「MaLion」しか見当たらなかった。



トータルコストパフォーマンスに優れている点

搭載されている機能群を考慮すると、「MaLion」の導入コストは他のツールと比べて非常に優れていた。他のツールでは一部の監視機能がオプションとなっているものがあり、仮に今は必要性を感じなくても、将来的に必要となった際に追加コストが発生する。その意味でトータルコストパフォーマンスは極めて高いと感じた。



既存のPC環境でそのまま導入できる点

ツールの導入に伴って社内の端末を買い替えるのではなく、現状の端末環境で問題なく動作するものを探していた。「MaLion」はPCに常駐させるエージェントプログラムが軽いため、比較的 low スペックのPCでも運用できるツールだった。

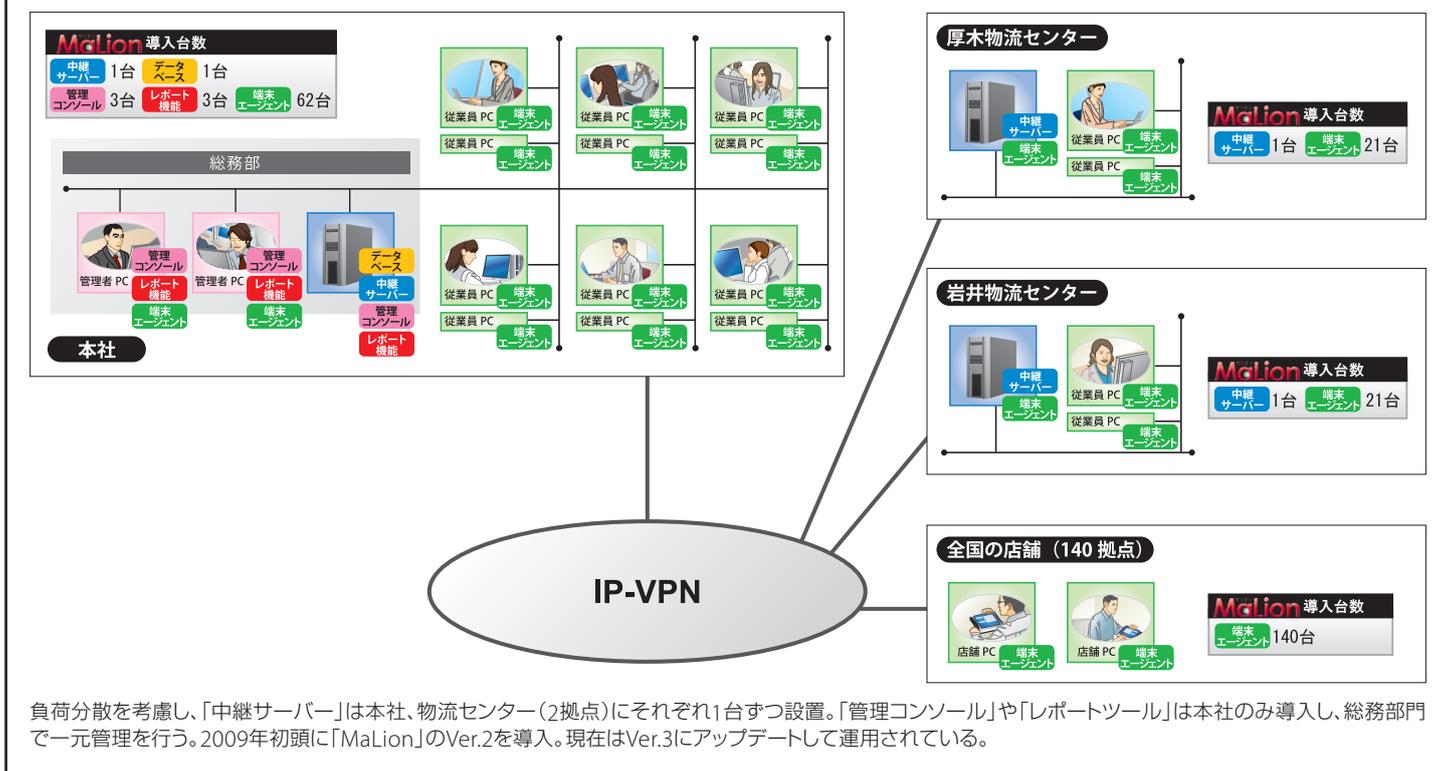
導入の状況

プリンターなどを除くすべての社内端末に導入。管理者2名体制で運用

「MaLion」の導入状況について教えてください。

当社のネットワークは本社、物流センター（2拠点）、全国の店舗（140拠点）をすべてIP-VPNで接続し、合計244台のWindows端末が稼動しています。現在では、「端末エージェント」が動作しないネットワークプリンターや一部の基幹系サーバーを除くすべての端末に「MaLion」を導入して全社的な運用を行っています。

【株式会社ニュー・クイック様 - 「MaLion」システム概要図】



運用と効果

業務への影響を踏まえ、“店舗PCは原則制限”、“本部PCは原則ログ収集”で運用

現在、「MaLion」をどのようにご利用いただいていますか。また導入効果についてはいかがでしょうか。

「導入の経緯」（表面）でも触れましたように、当社では、各店舗で利用するタブレットPCの操作制限を主な目的として「MaLion」を導入しました。そのため各店舗のタブレットPCに対しては、USBメモリの接続やメール送受信、Webアクセスなど大半のPC操作を制限しています。さらに「MaLion」で制限できない特定のキーボード操作に対しても、操作を無効にする独自開発のアプリケーションを併用することで、以前の専用端末と同等の使用環境（＝セキュリティレベル）を実現しています。

一方、本社と物流センターのPCについては一部ネットワーク監視（不正PCの接続遮断）機能の制限を有効にしているものの、原則操作ログの収集のみで運用を行っています。小売店における本部および物流センターの業務は、緊急性を要するケースが多分にあります。操作制限により本来の業務に支障をきたすことは、業務効率の大きな低下につながります。そのため操作制限自体は最小限度に留め、ログを収集していることを社内に公開することで不正行為の抑制を図っています。運用を開始して1年半ほど経過しましたが、今のところ特に不正は発覚していませんので一定の抑止効果につながっているものと思います。

ちなみに収集したログの活用については、「管理コンソール」に通知されるリアルタイムログをもとに、気になるログに対してはその都度参照を行って不正な行為がないかを確認しています。「レポート機能」を利用したログの確認は現状行っていません。「MaLion」ではレポート作成をスケジュール化して定期出力することができますので、ログチェックの効率性を高める意味で今後活用していきたいと思えます。



●開発・販売

株式会社 インターコム

本社 〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル TEL : 03-3839-6769

中部営業所 〒456-0018 名古屋市中区新栄 1-6-9 TEL : 052-678-3901

西日本営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 2-5-12 TEL : 06-4705-3060

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>



User Profile

会社名：株式会社 NTT データ エマーズ
 所在地：〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-7-1 TOKYU REIT 八丁堀ビル
 設立：1968年8月
 資本金：3億5,400万円
 「MaLion」ご導入台数：150台

株式会社 NTT データ エマーズ

ホームページ

<http://www.nttdata-emas.co.jp/>

**取引先より定期的な監査があるなど、万全の内部統制対応が求められています！
 マリオンへの乗せ替えて、情報セキュリティ体制のさらなる強化を実現！**

大手金融系企業を顧客に持つ株式会社 NTT データ エマーズ様。顧客のニーズに応じた各種金融系業務システムの開発や運用管理などを手がけられています。今回本格的な全社導入を前に、「MaLion」をご導入いただいた経緯や決め手などについて、企画本部 経営企画部の石橋様に伺いました（2009年1月末取材）。

導入の経緯

セキュリティの強化や運用上の負担を削減するために既存システムの乗せ替えを検討

まずはセキュリティシステムに関するこれまでの導入状況について教えてください。

当社は、社内ネットワークの構築当初よりセキュリティ維持のために、ネットワーク監視 / PC 操作ログ収集 / ウイルス対策といった各種ソフトウェアの導入を行ってきました。これは顧客先である金融系企業との取引には欠かせません。

銀行、生保といった金融系企業にとって、万全の情報セキュリティ体制は他業種の企業以上に経営上の必須課題です。そんな金融系企業のシステム開発を請け負っている当社にとっても、万全の体制は重要な経営課題となります。



企画本部 経営企画部 石橋 太郎 様

以前から万全のセキュリティ体制を維持されているご様子ですが、今回新たなセキュリティ商品の導入を検討された理由は何でしょうか。

現在導入しているネットワーク監視ソフトがだいぶ古くなり、機能面や運用面で近年の同種ソフトと比べて気になる点が出てきました。具体的には、「新しいサーバー OS をサポートしていない」「ログ容量が膨大で、HDD の消費が激しい」「ログ検索ができず、管理面で課題がある」といった点です。

また、社内セキュリティの新たな強化点として「Web フィルタリング」「メール監視」「デバイス監視」といったクライアント PC の操作監視機能についても導入の必要性を感じていました。そこで、既存のネットワーク監視ソフトを乗せ替えるにあたって、このような PC 操作監視機能も搭載する総合的な情報セキュリティ商品を探すことにしました。



数あるセキュリティ商品の中から「MaLion」を選択された“決め手”は何だったのでしょうか。

導入に際して、「MaLion」を含む計 5 種類のセキュリティ商品を比較検討しました。最終的に「MaLion」を選んだ理由としては大きく以下の 3 点となります。機能面や運用面のメリットに加え、同等のセキュリティ機能を実現した場合に他社商品では思った以上に費用がかさんだため、コストパフォーマンスの面でも「MaLion」が当社にとって最も適切な商品であると感じました。

「MaLion」導入の決め手

- Web メール監視や Web フィルタリング、USB メモリの利用制限など情報漏洩リスクのある PC 操作の制限が可能**

「MaLion」には、導入の必要性を強く感じていた従業員 PC の各種操作監視機能が一通り揃っている。通常のメール監視に加え Web メール監視にも対応していたり、個体識別用の ID を利用して特定の USB メモリの利用を制限できたりと利便性も良い。
- システム管理者自身の操作を含め、各種 PC 操作ログの収集が可能**

導入を検討した他商品では管理者自身の操作ログを取れないものが多く、セキュリティ面で不十分だった。一方「MaLion」では、管理者の操作ログを収集できる上に管理者に応じて管理できる操作内容に制限をかけられるなど、管理者に対するコントロールも意識された商品となっている。
- 乗せ替え前の商品より運用上の手間やコストを削減可能**

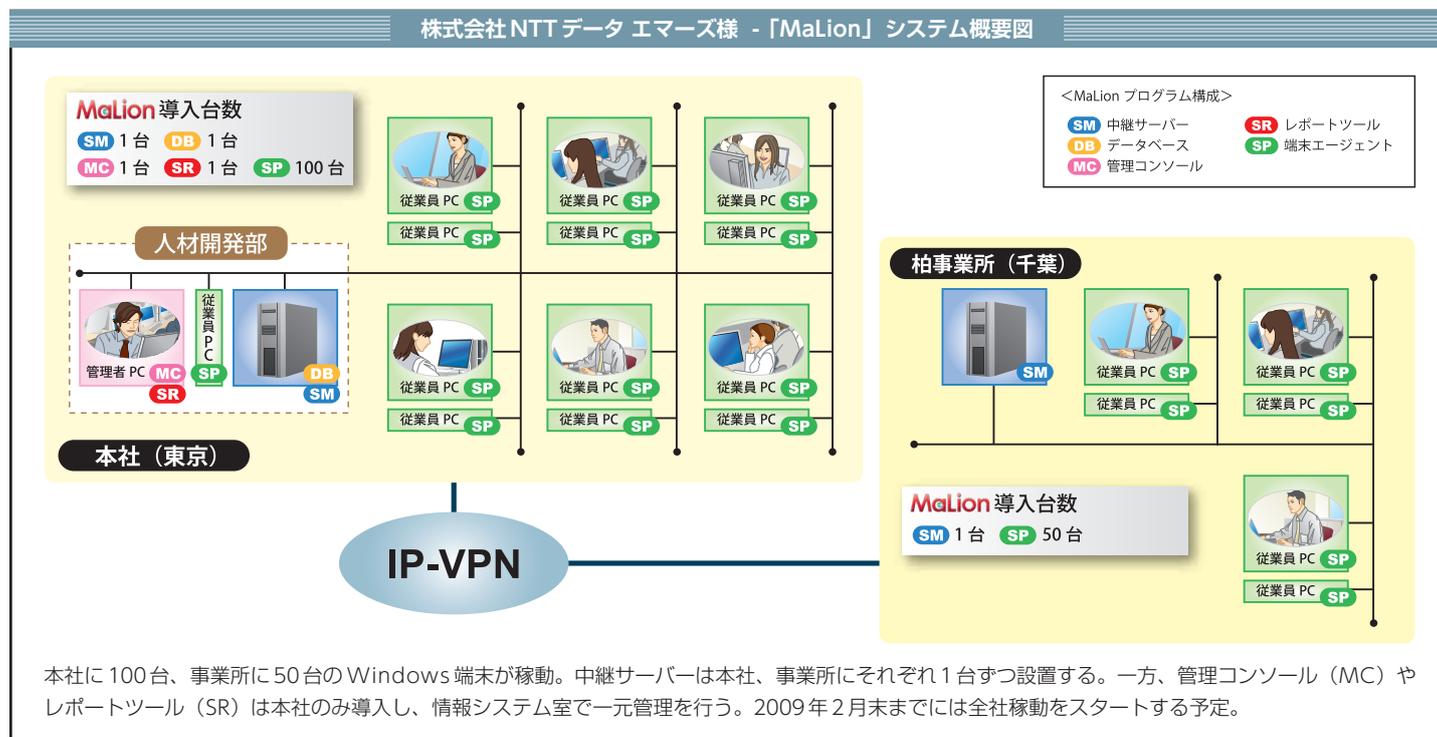
「MaLion」では、収集したログや統計レポートを CSV 形式でファイル出力できたり、キーワード検索により膨大なログから目的のログを素早く探し出せたりと、既存のソフトウェアと比べた場合、管理者としての運用メリットが高い。その他、操作画面もほぼマニュアルレスで利用できわかりやすい。

導入の状況

特にトラブルもなく、合計150台の端末へ順次導入が進む

☐ 「MaLion」の現在の導入状況を教えてください。

当社のネットワークは、本社（東京）と柏事業所（千葉）をVPNで接続し、2拠点で合計150台のWindows端末が稼動しています。「MaLion」の全社導入を前に、これまで試験的に数台のPCで運用を行っていました。2月末には各Windows端末への導入を済ませ本格稼動させるべく、現在順次導入を進めている状況です。現在のところ特にトラブルもなく順調に導入が進んでいます。



今後の展望

従業員に対する PC 操作制限を業務ルールからシステム化へ

☐ 「MaLion」を活用した情報セキュリティ対策について今後の方針をお聞かせください。

“導入の決め手 (表面)”でも挙げましたように、当社では社内PCの操作制限を一つの目的として、今回「MaLion」を導入しました。そのため、本格稼動当初より操作制限 (禁止) を前提としたセキュリティポリシーで運用する予定です。

具体例として、まず“USBメモリの利用”については、個体識別機能を利用して会社で許可したUSBメモリ以外の利用をすべて禁止します。また“CD/DVDメディアへの書き出し”については、業務上の利用を考慮して書き出し専用のPCを1台用意することで、他のPCでの書き出しをすべて禁止します。このように、従業員の各種PC操作に応じた禁止ポリシーをそれぞれ考えています。

☐ 徹底したPC操作の制限をご予定とお話ですが、従来の業務オペレーションのご変更など、業務上の支障へのご対応についてはどのようにお考えでしょうか。

今回適用する運用ポリシーの大半は、これまで業務上のルールとして定めていました。そのため、「MaLion」で同様のルールをシステム化しても業務への支障はないと考えています。

もちろん、万が一支障が生じた場合はその都度対応を検討していきますが、とにかく顧客先との信頼関係も含め、情報セキュリティの徹底は最優先事項となります。業務への支障は考慮しつつも、原則的に厳しいセキュリティポリシーで運用していきたいと考えています。

